

神勅の指のちう女弓削園り  
 大尾  
 のかりの世と悟つて小町袋サバ果

ト一子解

守ま下かくる格形の時標目  
 教示する口とさるる居の門  
 立より老も若業成法を月鏡  
 丹精で日坊ふふくと富貴料  
 孫成をよて祖父の恩とひ世し  
 〇夜更のきひ任舞を編と内

去中  
 吉下

里と

柳女

夜更

和歌

全

柳條

深川へ秋とくろ初る水の恩 上  
 夜りの様へ男の為ふ多うぬ苑 凌有  
 鳥がと付山敷隣りく之一 柳 弁  
 音の奇麗の海と深さうば 西置  
 木合が後ふあさつる冬の月 上  
 縁のきりじと茶籠電せう治御 柳  
 美教秀の松島中り巡りく 丸角  
 長ハ急げと神まうてふも草鞋 上  
 日なちうや鳥の産子の初ま 全

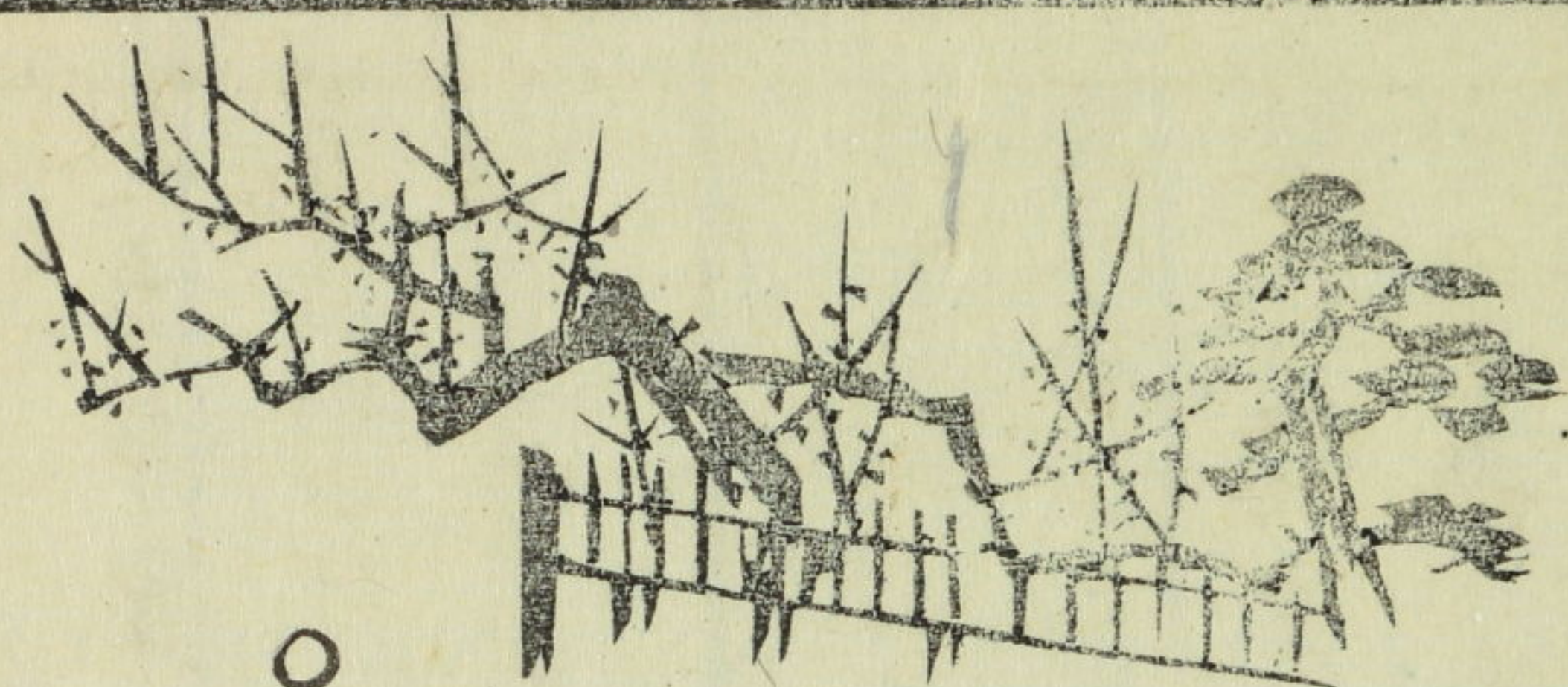




舟より毛雜をぬく河の八宝船寺 野集  
 河中の島廟城上より方が生け 柳條  
 落しと爰見ると初日の煙業作 全  
 の藪入の敷見りまわす村渡り 菅芝  
 採集りも着る種の特をかひ 菅舎  
 柳條評判上人の其船舟 菅芝  
 舟より附りて毛雜をぬく後 菅舎  
 後を見りて毛雜をぬく後 菅舎  
 上舟 山菜屋の柳の毛をぬく 菅舎  
 菅舎 菅舎 菅舎 菅舎

行ひち六折んてく毛投網お上人 丸和  
 安珠の毛帯と袴と寂滅し 菅舎  
 志らぬら仏竹くともあは浄る 柳條  
 ま月事草のつる火舟の橋炭寺 菅舎  
 松舟の毛帯と袴と六折んて目 菅舎  
 産子ナまきとあらしひる子沢山 菅舎  
 毛織りんで毛帯と袴と杖と竹 菅舎  
 船より儀あえまきと袴と杖 菅舎  
 毛織りんで毛帯と袴と杖と竹 菅舎





庭ぬけ小園のあやの碑をこれ  
 梅の香も遊魚のすゝり下如う果  
 出果小梅のてえさのく去仏中女  
 長唄の本も急事成居へとら  
 死人をええけ秘小寺て電  
 種味嗜成を念小寺へ長局  
 〇夜迄びつくり先慈の天忘極  
 好春のえんじをさされて念を遺  
 船橋の人別懐小多兒八云傍  
 寺  
 成之  
 全  
 梅は  
 回舎  
 全  
 梅は  
 寺中  
 十丸  
 寺  
 成之

下七も味のよへのハもてく  
 此書深瓢の海で多成院ハ  
 大尾  
 舟小使すの間智る園  
 寺  
 成之  
 梅は  
 柳林

隆五辨

法行行忌小回民も巻七鼓後受  
 甲 長中  
 丙辰の傍小賢富の辨小らみ  
 甲 二編  
 天の海度まで直胸小能叶ひ  
 木唄  
 海より能くく多灌が舟の曇  
 友垣  
 汗の玉散る小中身と見えぬ  
 松雨

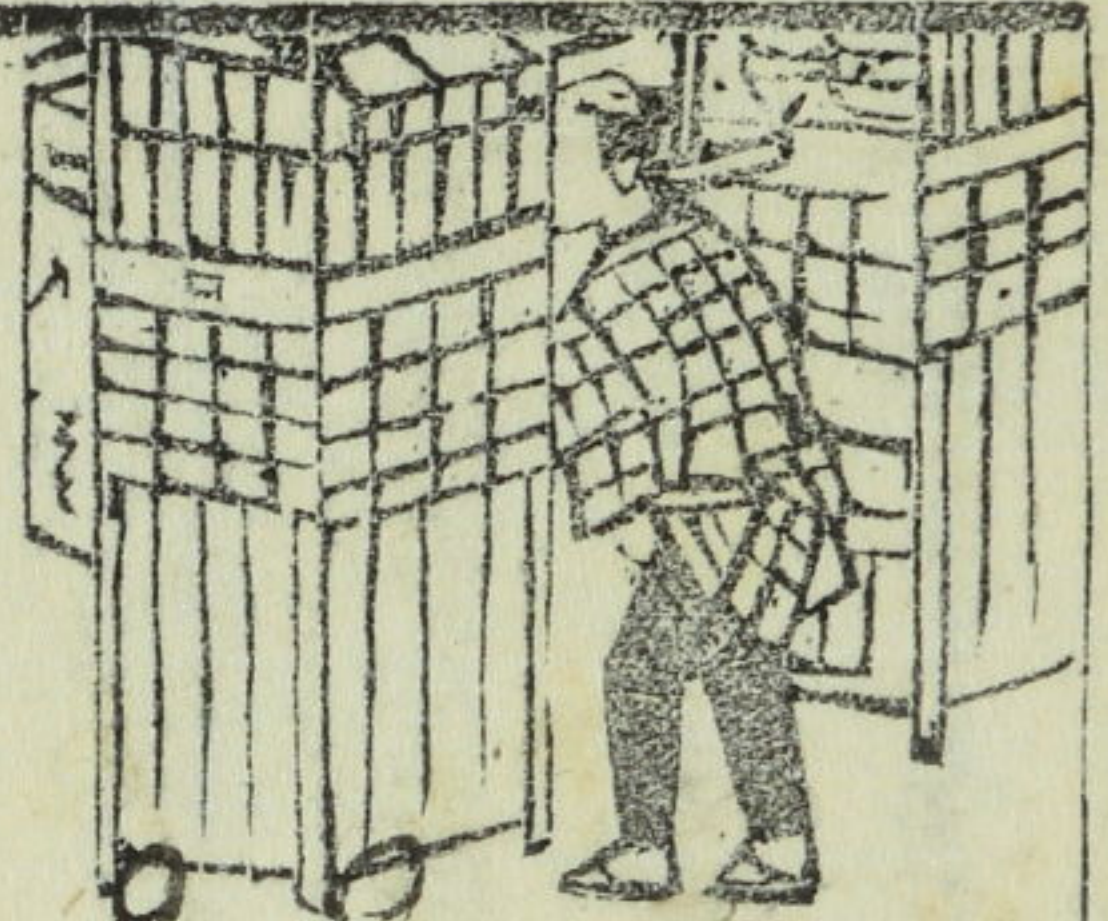




医の三仏と性生或るや如粥 西堂  
 律ハ父母ハ仏の中より慈悲 冥  
 法中の指折初を伸くと臂 阿曇  
 蓮生が適世清き水離れ 十丸  
 紀生佛法森立摩之山夜と岩 夜宴  
 暮小中回つた良夜が母心 芽地  
 汗が引込むと頼豪あつた 茂甲  
 画筆まて二刀と暮小良夜森 松雨  
 海老の足ゆく鵬鳥の音あり 寺  
 東齋

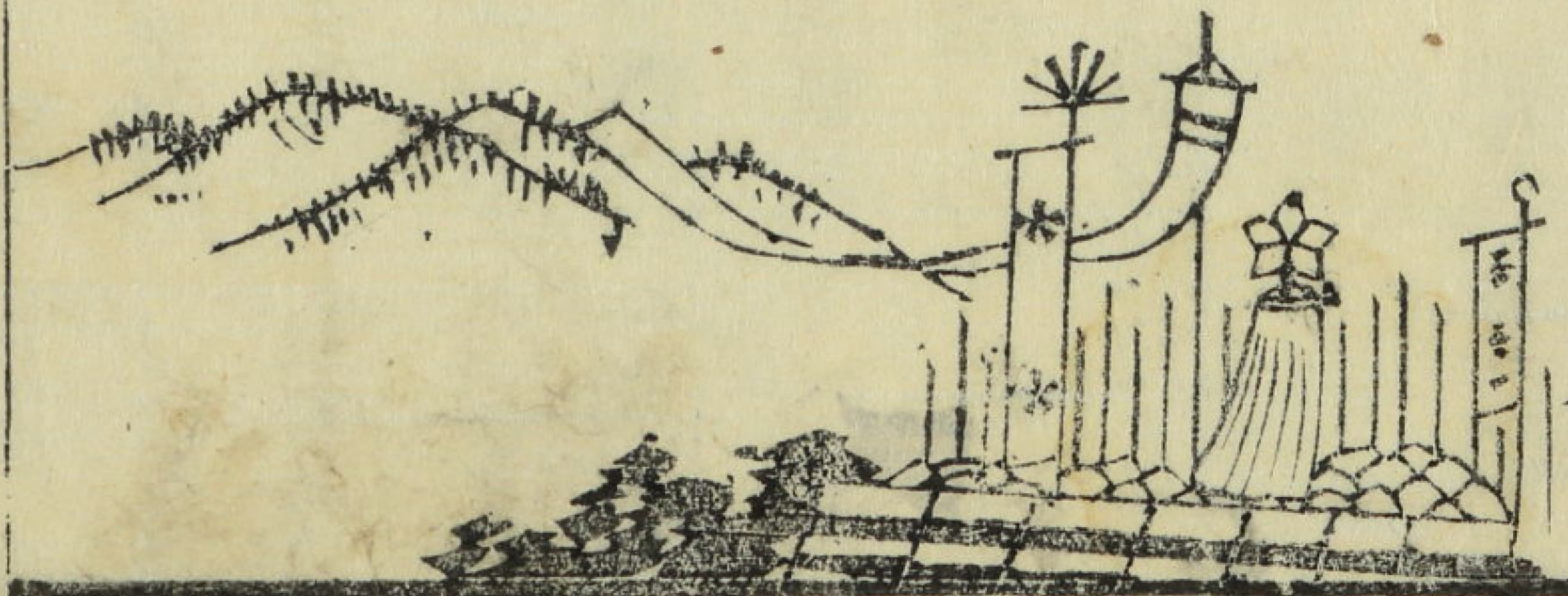
海老一金の類 さい坊生娘才 和齋  
 庵ぬけの雨ふ代續も海 小桶 特芝  
 亮着舞ふ丁稚の涼于梵 友坊 寺  
 舟田の玉川礼祝を千巻す 阿曇 寺  
 ちんとくまて歌歌くそ焼火甚 口 成之  
 ころの酒吞まぬ一存成かツカセ 芽地  
 山岳の勢く晦日八用も煮へ懸レ 寺 冥丸  
 菩薩摩訶草のあつた大坪ふさく度 寺 東齋  
 紀生とて暮るるにも無く熱入齋 崔芝

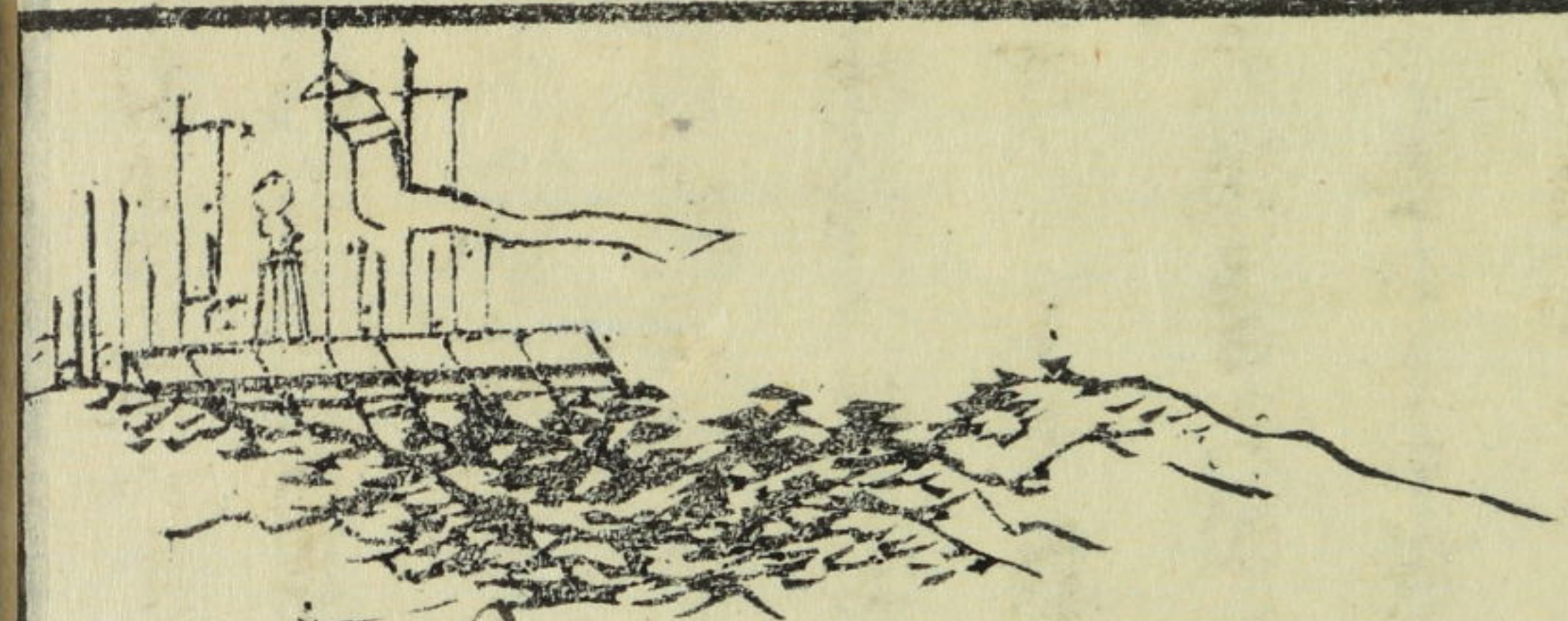




羽響入綴ツルギ附齧の元天志 一七  
 皇女如月乃其條ハ物ぬ夜響と云 香舎  
 の家祖をの畢九世之汁の山 春樹  
 〇夜迄ヒク踏陣中迄キ人形 柙締  
 知抄と少和後肉経夜迄志れ 〇サコ  
 病持の巽康者限下百服 〇香舎  
 大層 桑路仕の英女也此物の水籠 去中  
 〇サコ評  
 老う六老うう成友松小鶴 夜夏

昔度使ハ鈴と真を成退不鳴子 〇サコ  
 老の怪樹義小友隠後お歌 白若  
 六六山人初ま親の懐も老るハ 後樹  
 痛癒ふ聲で山入る衛作の子 白若  
 鳩舞が分て板安山小待チ 長年  
 子多兒を去るハ鴉巻小厨と焼 棟木  
 小捨子て鈴を吟とる鼓腹の世 柙締  
 せびても事成仕損せぬ一夜城 長年  
 空船をの君ふ矢若ハ的と除ク 木甲



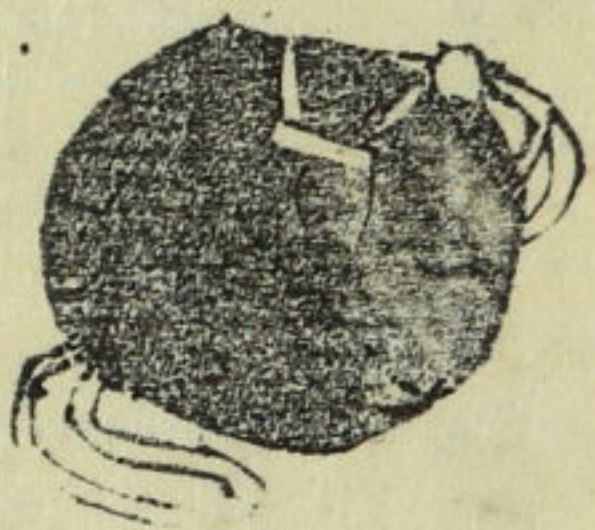


毘布く落ても朝士サマシ少くあらば一弁  
 兼光ハ身て要殿ハ事一老  
 かつまりが姿で石山岩を象ワラ  
 足跡も酒をうけはく香の如真中  
 吉原の秋家とて下置雛  
 渡し場て老の五瓶五和歌  
 の上戸ハ毒と知らば戸ハ毒と知ら一太  
 山傍の陣運の向方ハ筒丸角  
 魚川岸の幕ハむのきの引籠玄垣

白ひの光ハ本屏と知り一弁  
 海吉屋あつとろ崎舟友垣  
 じがかり光の美談礼と見る供一光  
 けね屋へ上戸あらへ海和歌  
 桜枝の傍菊林小目もを里と  
 押くとも鯨肌香の痛汗真中  
 天徳寺大坂と粧く又後猫尾  
 の中の子の胞衣ハ袴場の幕の中田舎  
 赤根屋の翠丸ハ世々舟春樹



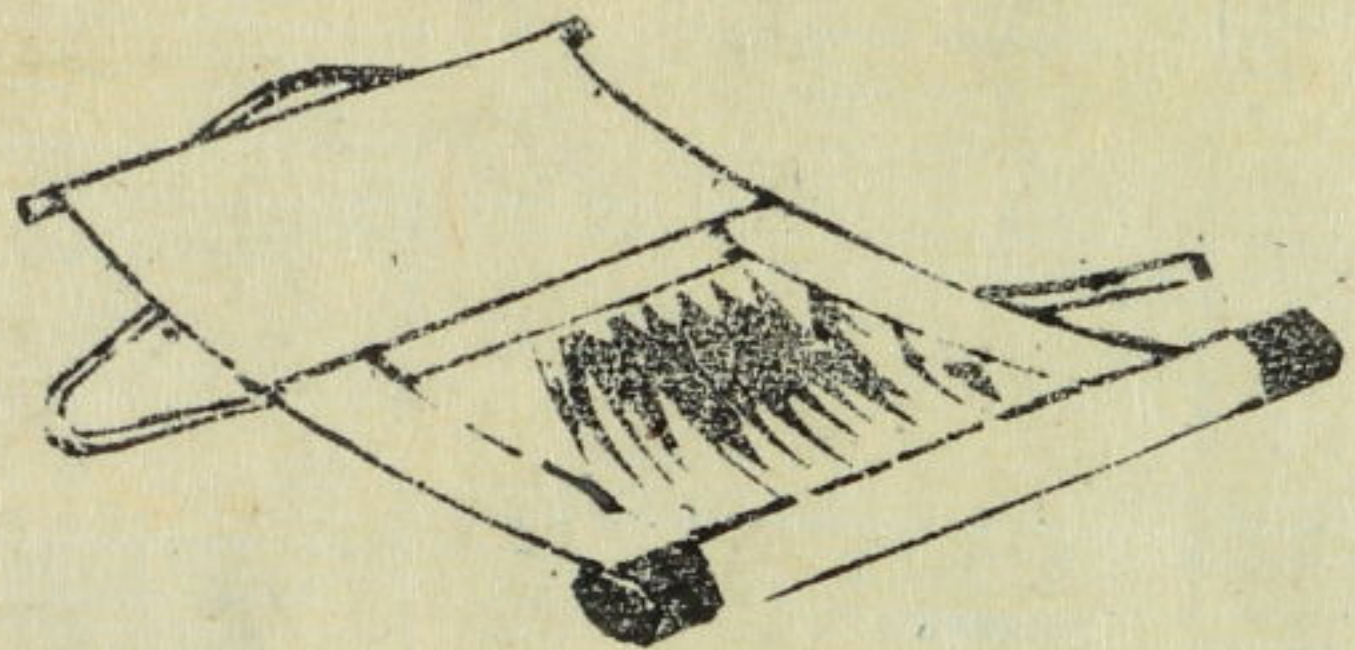




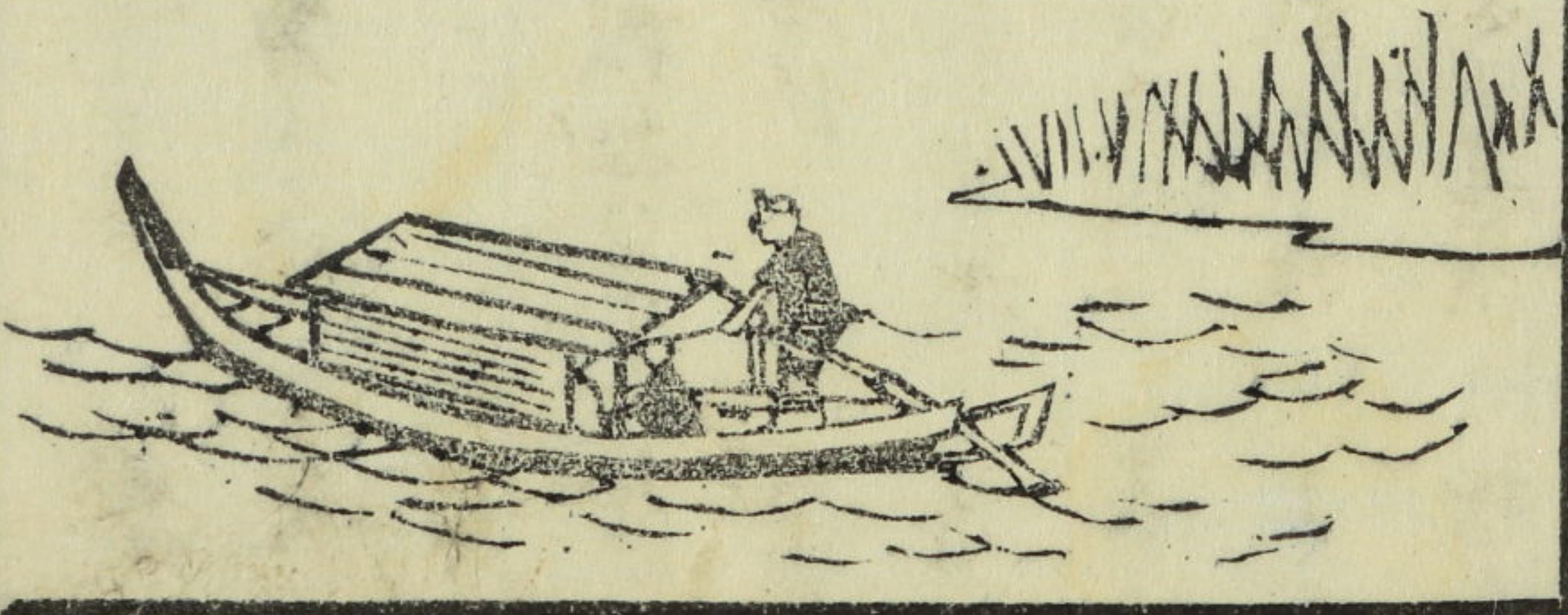
巾着の小鞆大尾 三本 田舎  
藤原の金真おと子者り損 三ッラ

二古絆

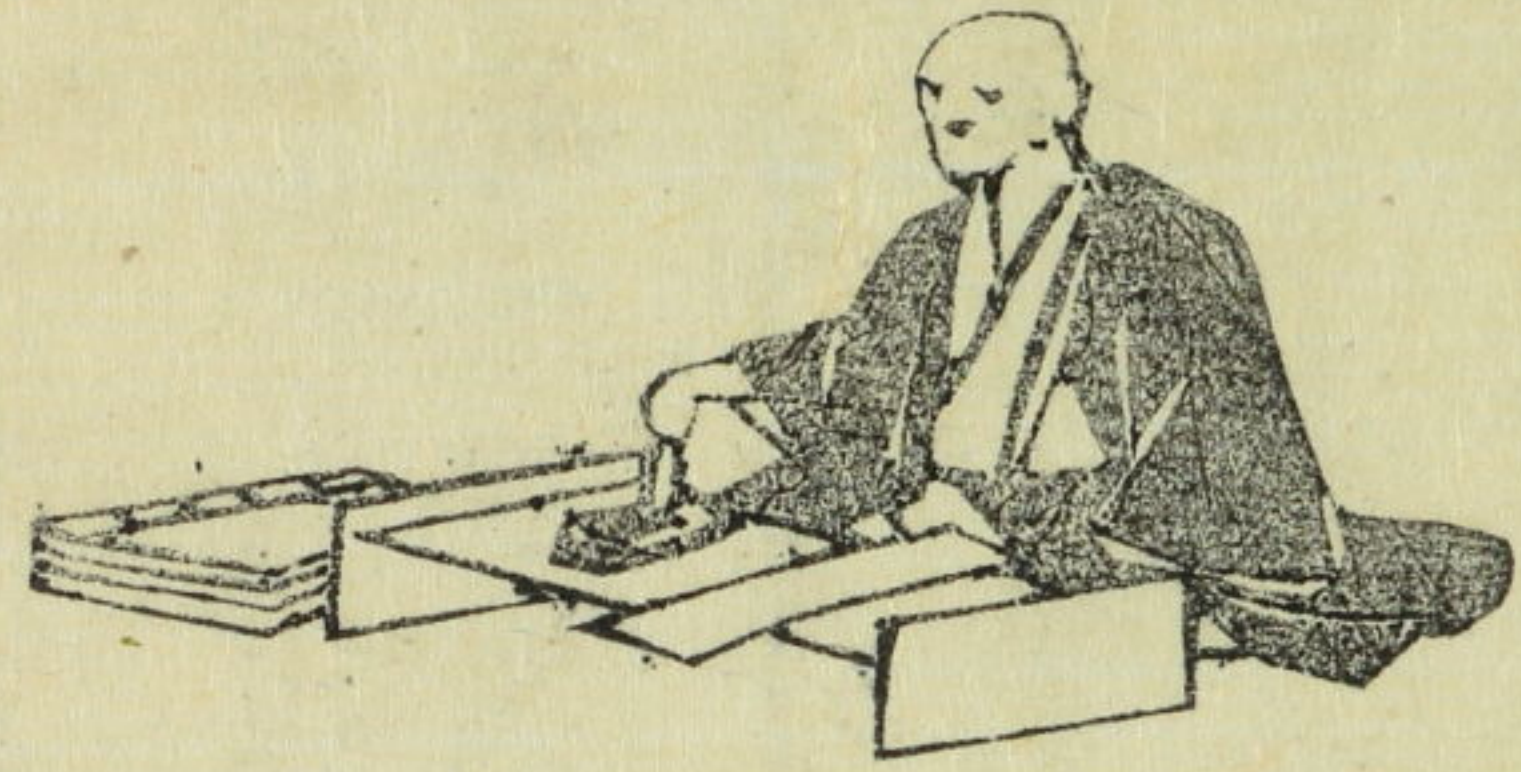
小指まで縛成今くくる鼓後の世 抄ト  
朝古後と菌有りが葉成一子括 九角  
下南学者負之ぬ書柳六本極 甲子  
夜多く反後か成り一白文引ク 茂年  
情のくる見世之産絆を就又組 三ッラ  
藤原も子風あり其の名も速ハ 柳糸



流意純も突ッ後下麻あり佐藤 阿野子  
多智の油の車かふる門七知り 文行  
多り人の立腹をまわの吉成出一 田舎  
月のよふ多る所の何も始りた多 小島  
雲やあらくものおはり船の名をし 舟舟  
居の夜送ひお伸へか成り法見 三ッ出  
直しておわれ不因のてく化と医者 世に在  
今の人を指おせん以て鼻の茶 三ッ子  
何のが子送成んと何も下女校用 三ッ子

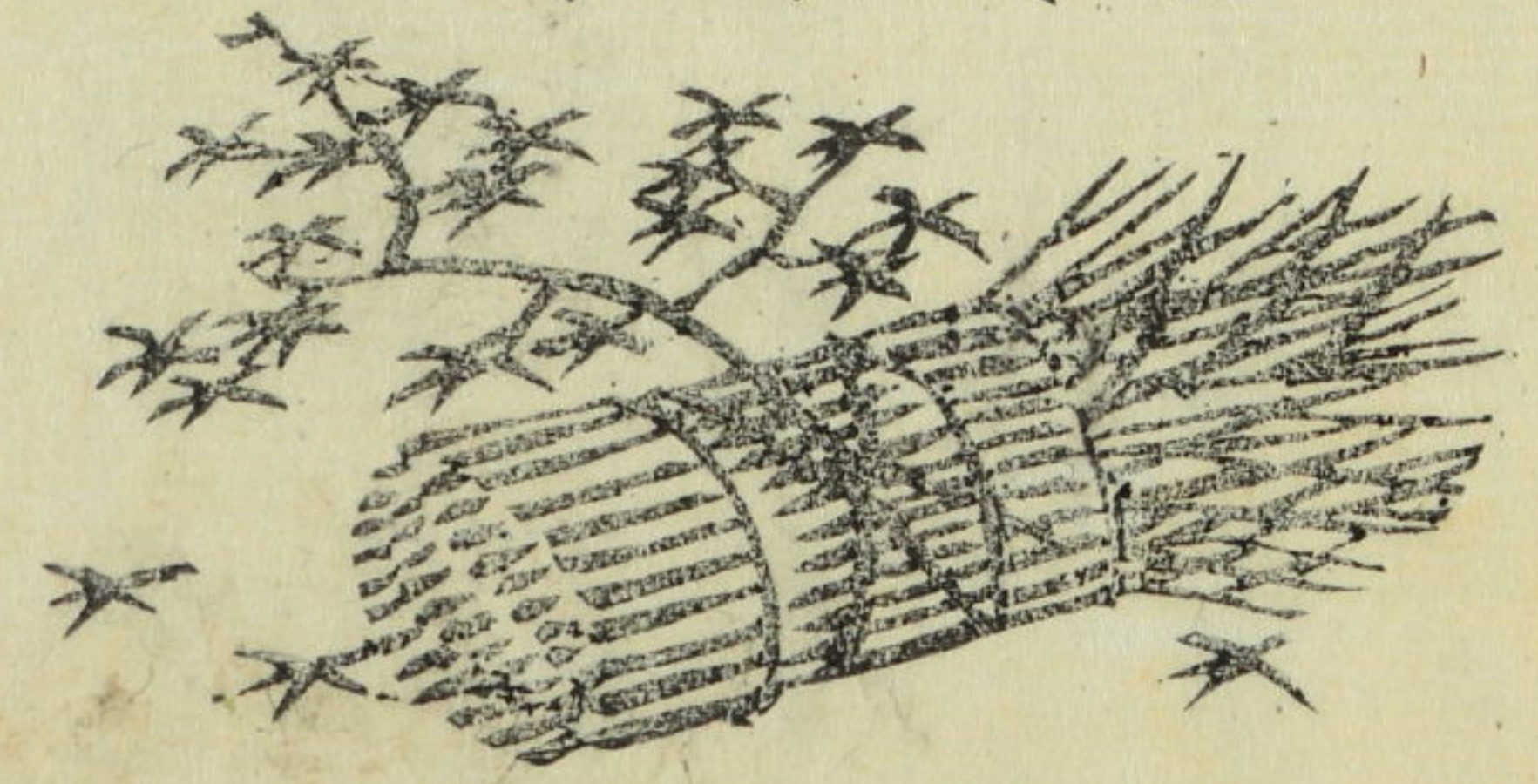






款道の骨肉儀多し加茂の老  
 友松  
 各氏製く一心係の終人なり  
 十九方陣本たんとるい名匠  
 額の馬あし人河一親の縁  
 一六  
 官職の去来一朽木紙立羽織  
 存是  
 菱菰と必産辨戸ハ汚名  
 之廿五  
 神ハ父公と扱の中多良  
 友是  
 非常の扱ま人と為業修く供育  
 九角  
 大伽らん日掛義多々嶽の塔  
 友治

尾修色えりハ亭の礼傳り  
 友治  
 流き物無事なり枝小流と稀  
 友治  
 此るふも肩毛の延る大和尚  
 友九  
 濁る多々松む熟年が業之半  
 友之  
 大肯好事家教礼完四為く半  
 友樹  
 縁く鹿くくかり雅成金に  
 上友  
 乳貫持ッ仁富家多々旅の来  
 之廿二  
 貧も徳も成さずと云ふ善村の雅  
 友治  
 是亦實きせらるる人教  
 松雨





酒移へ法免る和合の因縁 真中  
 風の運局家へ毫字の相模をき 終り  
 焼豆腐牛のや吟へぬ渡り寺 巧屋  
 笑回へし名代小出と新造 辰屋  
 内明とて後し蒙角が秋の誓 比丸  
 挑灯多りし村の橋を梓へおれ 菅芝  
 拾ふが今来ぬり預さる炭炭を 柳屋  
 思月屋も妻小綱合お任せ 文行  
 とある附割し月のひらく年の笠 孫夏

大尾  
 山も尾と花亭少長獨伴 茂樹

丸角解

測量の出果ぬ八人の智恵の海 柳屋  
 とうり垂れ七少小罪も日の水 山柳  
 子成美也七夜小祝う祝て着 和屋  
 奢る家し障子控子成母ハ繕キ 芳丸  
 桃基へ接う桃父子で造る像 和屋  
 下綱の編み涙の寺着信 慶文  
 高人も家名賣のう下元子 水山





貸金延びる縄文家の以て世  
 終末の出入際も金箱を  
と文 家の名に結ぶる死後の花の係  
 荒神松竹のりてくれハ之丁塚  
 きく晩 穀ふ令成 脚くられ  
 情欲遊々よ苗ふらる麻又々も  
 忘れと成 養ふと 物きわ老殺  
 〇八時より茶飲むべの藪ハ  
 鳥の終ひとりり結ぶ鴨の端  
 初瀬 文作 序味 根丸 柳條 松雨 在芝 本介 此サコ

大勢ハ所 警負 落し 換り 書舎  
 暖炉もた文家の底の形と見え 在芝  
 引れて見え 勢家 出らる麻薬屋 株本  
 〇代口物も人の盗めぬ 甲 柳屋 友垣  
 仏作の病忘丹 ありきで忘れ込 死月  
 入ら武士も高人の言似成もる 後有  
 恩成知る大根もあらぬ 株くらり 友垣  
 何と芝居先ッ 姑ノの日 相成見 止丸  
 何々とも 縫も 〇〇〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇  
 後有

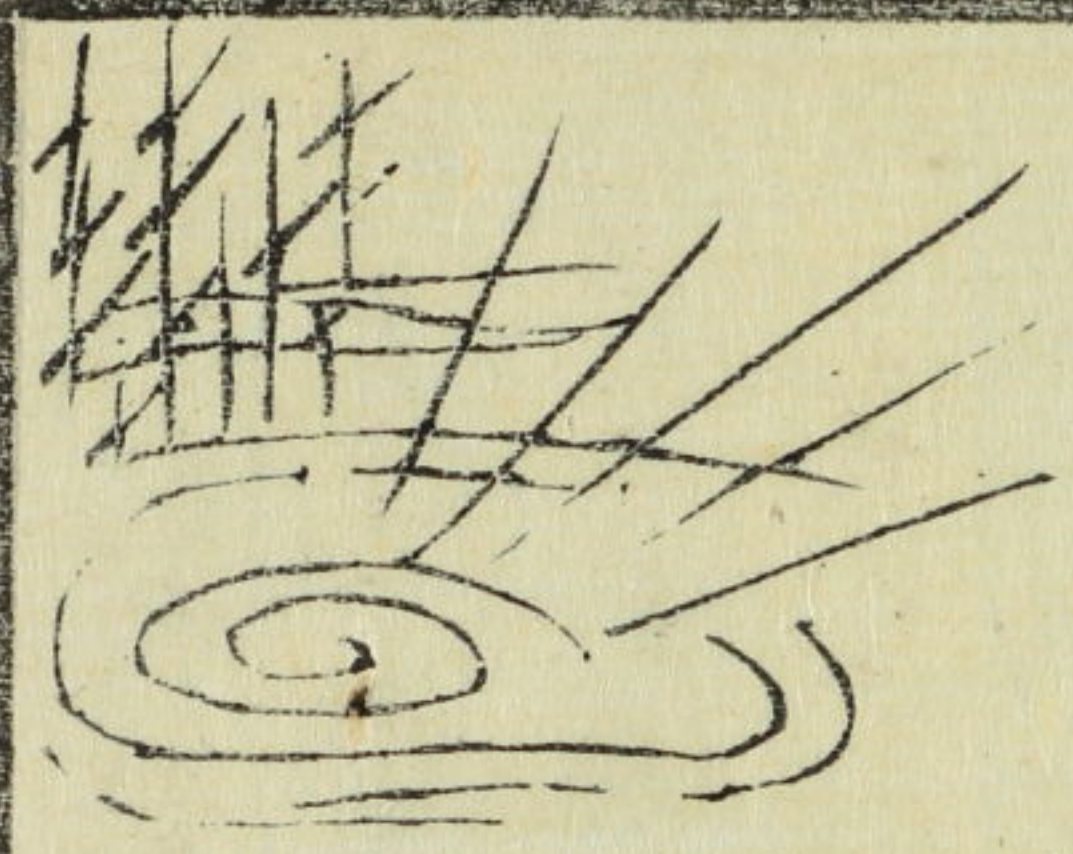




經師屋の息子隣の新成流り  
 子子の城中を々と多ッ貴<sup>ツ</sup>貴<sup>ツ</sup>  
 吾強て考へて居る下子ッ 原  
 子人であせつと中女の格り凡名 サクラ  
 ○子麻女房賢慮<sup>ツ</sup>成<sup>ツ</sup>て貞女<sup>ツ</sup>なり

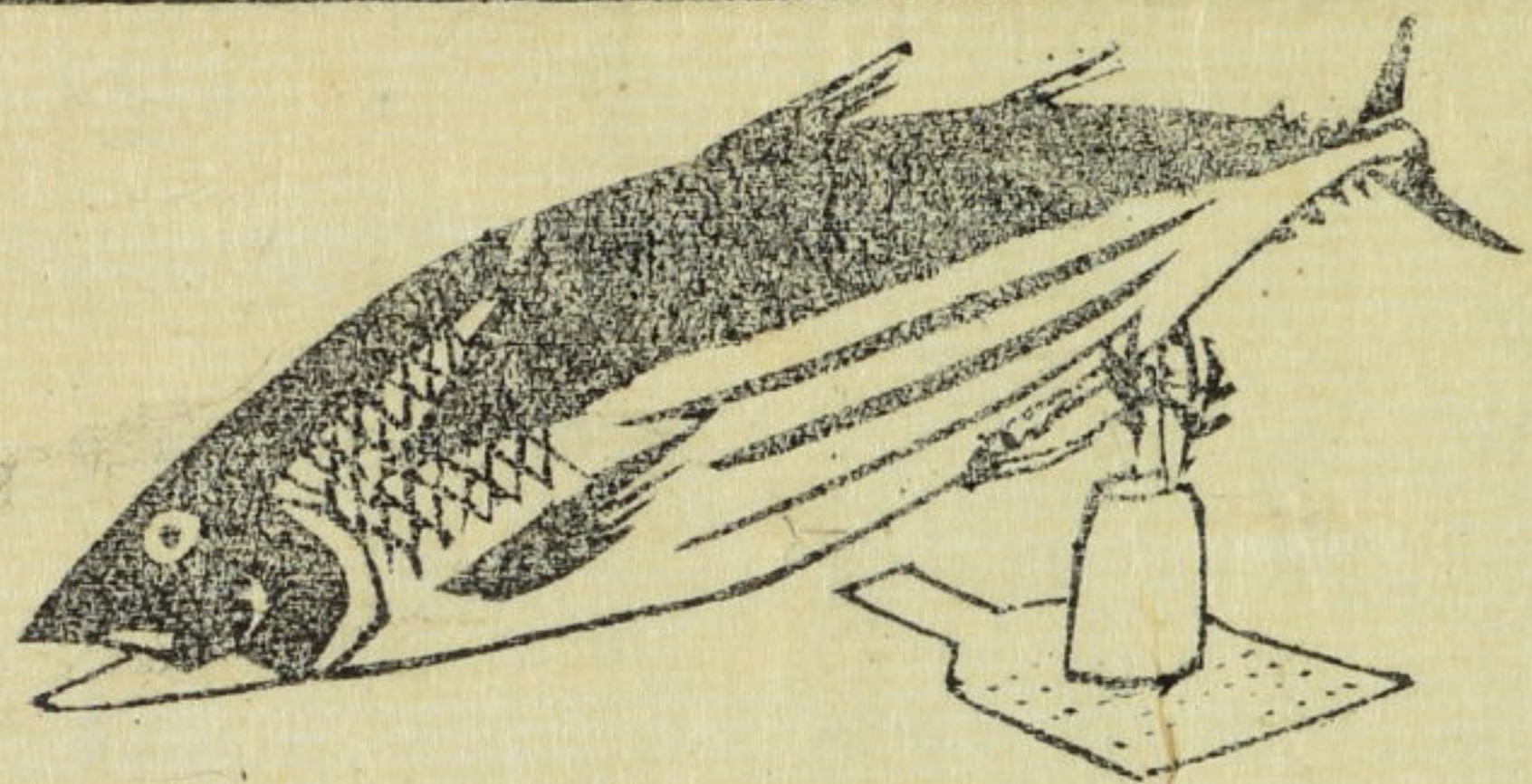
綾有辨

緒々も又上る遊廓中の皆色鳥 二六  
 所<sup>ツ</sup>獲<sup>ツ</sup>終る院出味方子傍<sup>ツ</sup>藝<sup>ツ</sup>紙  
 所<sup>ツ</sup>跡<sup>ツ</sup>院が池小橋後光の月の影 サクラ



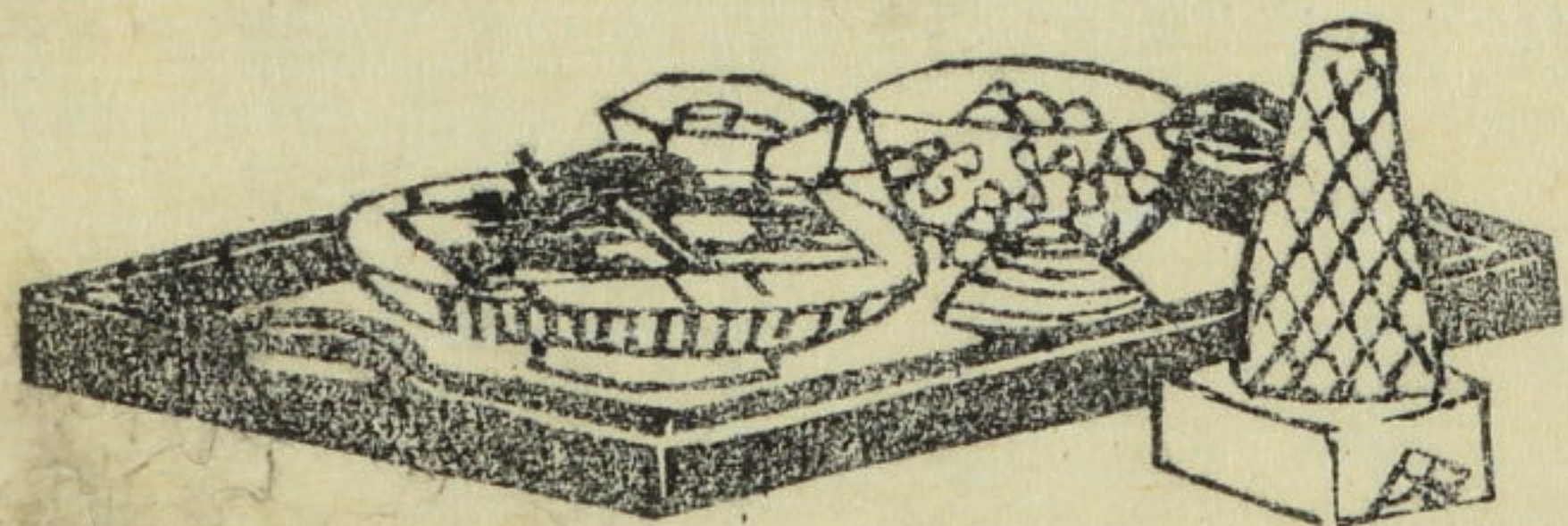
松風村雲拂ふ月の糸 柳は  
 涼亭の漣小舟をよこす民の行 一佳  
 之匠の乳美と向うを楳の杖 <sup>甲</sup>素花  
 けり乎き仁意<sup>ツ</sup>後<sup>ツ</sup>小<sup>ツ</sup>竈<sup>ツ</sup>太<sup>ツ</sup>教 真中  
 一汁一菜足る事<sup>ツ</sup>浅<sup>ツ</sup>知<sup>ツ</sup>の<sup>ツ</sup>教 茂樹  
 於の母を世菜<sup>ツ</sup>修<sup>ツ</sup>成<sup>ツ</sup>鬼<sup>ツ</sup>門<sup>ツ</sup>除 凶本  
 教えよん吟<sup>ツ</sup>長<sup>ツ</sup>遠<sup>ツ</sup>ふ<sup>ツ</sup>無<sup>ツ</sup>く<sup>ツ</sup>言<sup>ツ</sup>生<sup>ツ</sup>刺 一佳  
 傍の孝被<sup>ツ</sup>戒<sup>ツ</sup>の<sup>ツ</sup>罪<sup>ツ</sup>一<sup>ツ</sup>言<sup>ツ</sup>き<sup>ツ</sup>貴 <sup>甲</sup>台<sup>ツ</sup>論  
 糸光不能も六字の屋<sup>ツ</sup>成<sup>ツ</sup>妙 全友





序新丸の名意 奉席の正上段  
 日の種小寄り 万玉の冬之の燧  
 菊にて出せし 福の来り門張板  
 燈る御縁き 家福(肉)が附  
 父母意一吃成しとも 親さしび  
 孝ふ齒とを 之び猛虎ハ只以因  
 印がわら 孝子麻の乳は辛若  
 初松魚 親父が居るさうさうか  
 賢イのが 親の齒ふゆふ子の身持  
 松丸  
 ミサコ  
 トシ  
 甲  
 楽阿  
 ミサコ  
 盛之  
 松丸  
 尾丸  
 底丸

眼がえんく 是れハ 葉巻ハ 尾丸  
 乃く白せ せいの 柿の 初樂阿  
 因縁も 牛より 持ち親の 腰 トシ  
 眼も 鼻も 舌も 舌 舌丸  
 人稱し こと 或来 刺客の 舌丸  
 酒が 利き 舌丸 纏る 舌丸  
 小使 小 惟幕 舌丸 舌丸 女武者 舌丸  
 舌丸の 床 舌丸 舌丸 舌丸 舌丸 舌丸  
 八度 尾丸 尾丸 尾丸 尾丸 尾丸 尾丸 尾丸 尾丸  
 尾丸 尾丸 尾丸 尾丸 尾丸 尾丸 尾丸 尾丸





梅志解

我物も我物もかきり所代の慈 茂樹  
 見若しかきり母連く梅の糸 全  
 皆中一枚念仏の印ハみー 春樹  
 正宗成神地ふ備つる口渡治 田舎  
 おき成攪るる居暇。後生来 柳森  
 獨りさ子就ちおりのちお述べて控じ 茂樹  
 大宅のぐれと西のそと火入ふー 之サコ  
 馳走ハ餅より只人ハ心持 株木

喜良の億病美白之方小進々 發書  
 淡系奇蒙んせふ忘気な吾女人 友地  
 兄合るる藪原もとれと村の母 止丸  
 多智の油の車カよ成て知り 文介  
 隣の路又六ふ来て語り 梅止  
 土間の實切一人兄の布袋板 株木  
 腰成かちのて遠風と作匠仕 之を  
 能くしし生しこおりちやうるの来る 茂樹  
 角力の契之神の念之の福の糸 梅柳







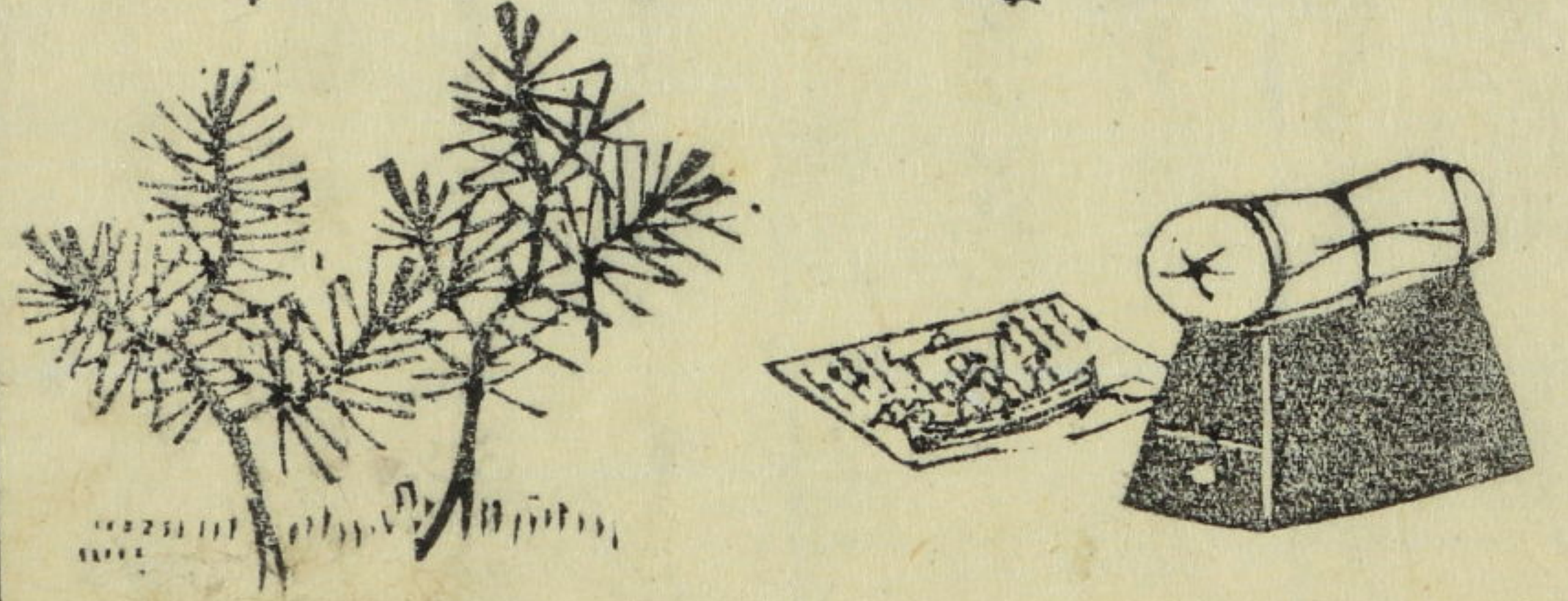
菊好ちきれ今の如き唐々何り  
 冊珊瑚不火も為し梅の炭寺 松丸  
 九ツ小地震と行きたる子医著  
 大納才兒身へ塩か思りく孫  
 うねひりり水引とままきくぬり  
 〇お高ハ医者と成医者ハ癒者寺 義早  
 角力の女房我物の内を蔵ト  
 長長鶴縁かけふられぬ下如  
 所産ハ糸糸の仙人紐でたう  
 宿舎 宿舎 宿舎 宿舎 宿舎

〇 芳の初来より此後生る牛の春 舞鳥  
 辻中死ぬるうとん中又一ツ 柳條

去るも寛ふく文律ハ和島行 茂樹  
 七大層獨良生初夏の夜小夢々 宿芝

阿豆磨齋

終り替り世も入海より松の籠 後有  
 良山ハ物候之度ハ雷火豊 木卯  
 鳳翔を清れ深山小室若鳥 戸出  
 陰せと木政先えげの智を治し 松産



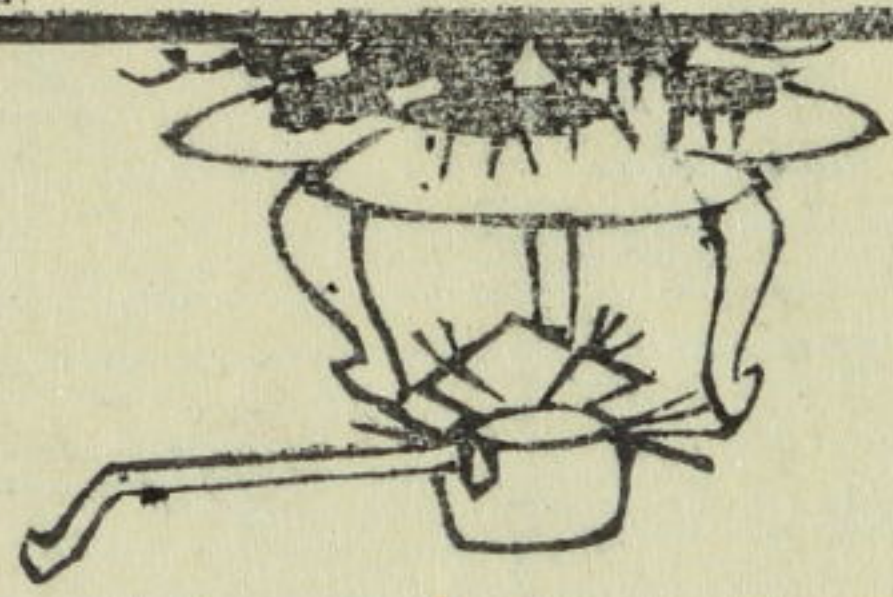
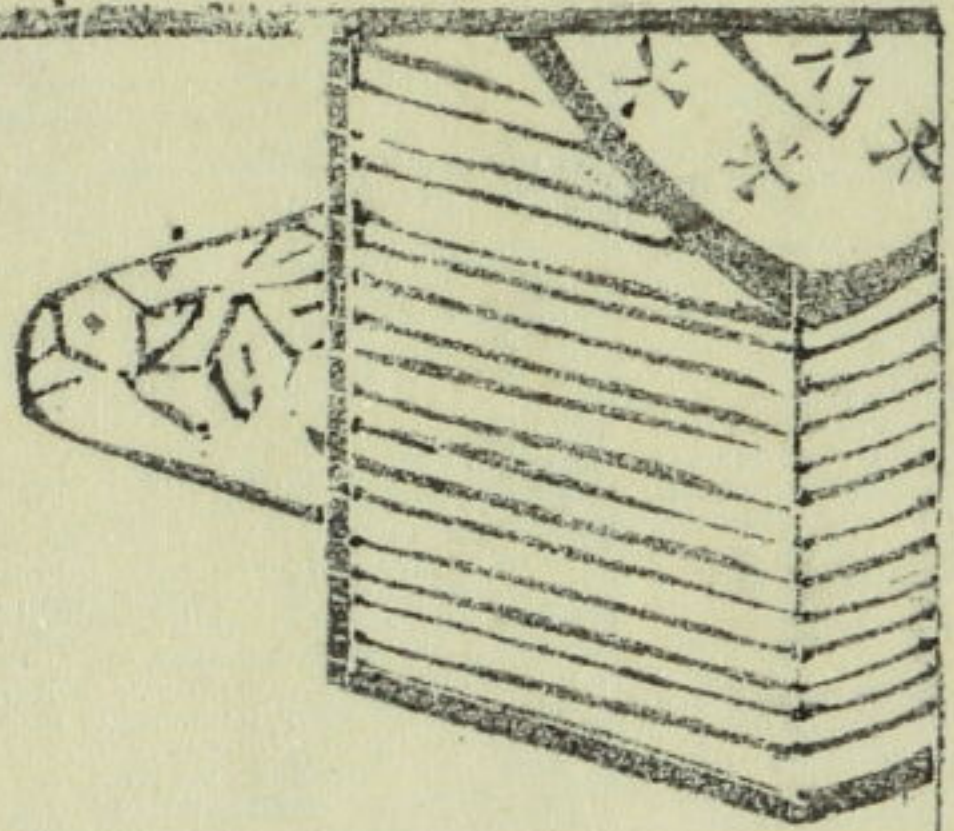




船橋がふくも中しそり香の船 橋柳  
 橋柳の中ふと病くの糸の香 正井  
 香の中香気成さくも孝の金 橋臣  
 藤村を月にて文を共ぬれは 春樹  
 並くの女も後の立田山 春樹  
 江戸ももろく成かそ秋の香 真中  
 けちる栞中え皮色 飄酒 芳丸  
 及也の身も御所の香さくじ 真中  
 月上を竈もろくもいと孫と本巻 田舎

橋の女我身の如くぬ罪作り 友作  
 縁へ去らば道なき橋の香 友作  
 洗うてゆくは清くは女を香 芳丸  
 光範の付死ふ似て未通し 本野  
 ソコカ大御母成えんて契縁程 真中  
 源光の本もえんて朽て盡 本野  
 天文者よみあくそふ今無ん 本野  
 梅田村ていん祀る悦法者 一太  
 去り夏ハよせよおろの祭りの夜 成之





十の字と忘草足穿て麻也 麻好  
 空運の口元騒て鳴く人 志舎  
 鳴戸殿着和布のぬき名義清 真中  
 〇和尙内用裏門成爲く出入 楳木  
 新地知く尺成判く傍 之サコ  
 〇香彩紙解ふのそ中知突 田舎  
 夏かて夏草かて妙也とろく 義可  
 〇四角屋の女房紗次たぬ見え 梅丸  
 志多てみこれる夜遠と下る武士 志舎

大尾

入替く怪小の梅ッ皮庫 志舎  
成之辨

獨立の若根四海小裁く了威 里山  
 月飛小場くハ親のささひ形 夜樹  
 藝成遊々和光小交る除福智 和齋  
 已らわくこの藝成をさる佐子香 一花  
 傳り小松着る月の上の痛 丸角  
 海意娘の若報成の夢小仇 和齋  
 面白の袖うけ引のりく机智 一花

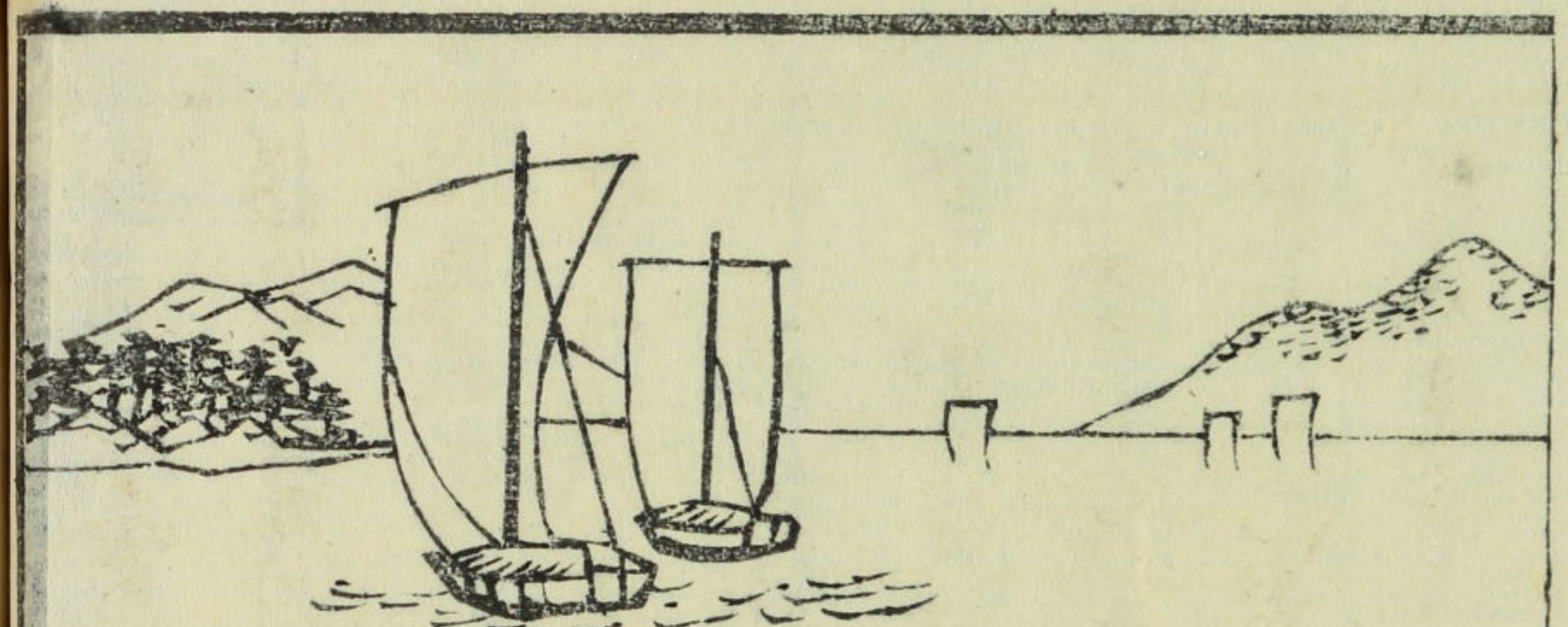




夢之貴雀の身衣れ夕子推 茂樹  
 塔行の一夜ハ事亦も死ツキリ 聖  
 絲不造く鬼を遣ふ赤繩 一古  
 大江戸の財商今屋古日千両 山柳  
 投と高力人衆をさぬ武の智略 真中  
 湯を清めてる猪梳も光明寺 麻路  
 允傍頼らる系糸と惜と在 寺  
 とも中打る余り湯花ハちり地 友治  
 紅葉入る多分山家の遊まき花 猫尾

物哉のよやく天物の鏡も書 夜真  
 人を紫也はをまゝも發へ馬 輝  
 美多ふくくく秘ぬ娘の汗 綾有  
 初縁と腰痛者汝も本小一 香舎  
 眼くらけり今実おの月之は 夜真  
 実方と世の化しとく紫衣殿 之りエ  
 羽門眼病北平膏愛くく古心 化知  
 望の敷公石帯之つらさぬ名 柳糸  
 孝々とも何れせめく日と月事には 孫夏





酒也ふ事ふか母なる徳大寺 一寺花  
 痛むる女身ふ余る勅を信 全  
 筆の業トや出見取標のまき所 友坊  
 修勢を結渡し行方も目代様 芳光  
 香祿五の意地も清安一 雲舎  
 鯨鯢の命ハ縁番を捨ぶ客 海  
 茶間屋ふ有るふお恵徳 友江  
 獨扱々坊も梅よみふ芝物丸 和歌海  
 舟の業藤汗ふ物のみ兒更爾 葛丸

〇 武具所賣見世情面もさうさ 里山  
 〇 後庭ふあふ似てよの安堵築 雲舎  
 加古川の中女も切てる松江ど兒 サクラ  
 燈之坊紙を枕ふ弟髪むそう志 芳光  
 何の鳥種と禁場の寺の花 白鳥  
 柳蜻足の後りふ草 馬 ミサエ  
 尾寺の完婚るるふ志てんじ 令丸  
 賢者の亡者て古の者ハ高尾 四食  
 〇 板屋まきく造地所いさるん 徳子





川華辭

お七五の遷化を承りて廿二日 柘我

床の青若子も福り流るる免尺 床照  
 病室の落武者つるも人出あり 十六  
 下齒がうらり年暮の筆紙落し 春芝  
 花宿でも娘の志を少くおまり 藤友  
 翁も余の浪利体射すせ尺 一花  
 〇同書に貞新は立尾を去りて 〇  
 大尾 流りの物身小掉をよみ紙被れ 全

昔は度使へ給と真若紙進ふ鳴子 三十五  
 盤若若居邪と或成なく珠粒と帯 和齋  
 名羅麻丸の目少く腰くた香の宮 里弓  
 帝親の利親を能作ハ華の真 綾有  
 細陀圓の羨寛くして木蓮花 仁鳥  
 色去のゆくりくくを糖(抄)は蜜夜 桃吉  
 歌路の鈴とく麻も紙鏡まうせ 友治  
 若子初も何大若のそくぬ所代 サクラ  
 多紙合も七仁も八能作の盛神カ 若山



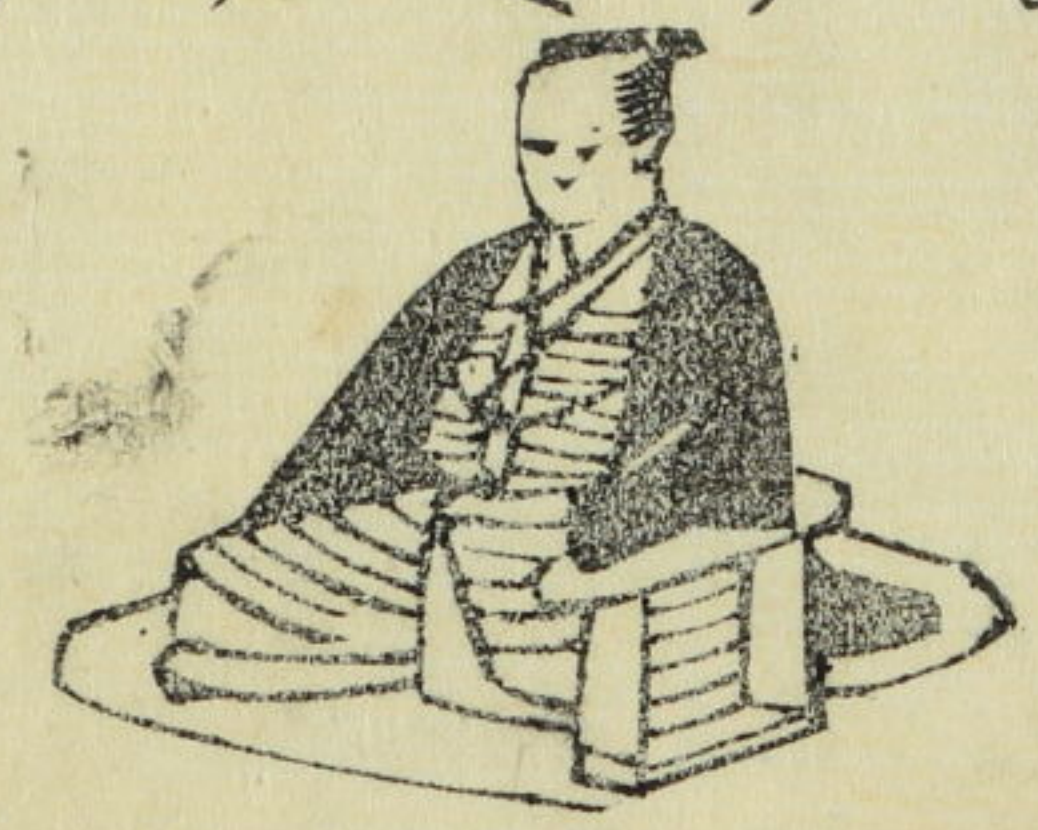


仙境も及らぬ所代の森舎経  
 終の口透れ庄化も他の上  
 うけ終一途縁をりて終り終き  
 山雲恩形短も樂坐即ち樂  
 白蛇あはせは深紙の忌 刺  
 智徳の沢庵山猿あふる寺  
 六字七字も公耳の如く出  
 月の柳殿ハ徳谷の竹段慕ハ  
 名山成物ハ財分あはる寺と付

本甲  
 和歌  
 九角  
 後樹  
 刺  
 田舎  
 甲  
 素托  
 梅丸

愚賞小書り多うれ一版一字  
 占りて悪慶も運の止お付  
 唯之を病ハ平川口の方と一舞  
 流小耳竟の服後紙引を内  
 短方解せは五人の藪と笑し  
 福縁の歌ハ多おまてて長以九  
 以神宗の石火機着も舌う息  
 後世の情人も多おまてて女  
 いましめと慈悲とあまらふ小縛の籠

令丸  
 サクラ  
 成之  
 聖  
 九角  
 後守  
 後樹  
 凶森  
 甲  
 五

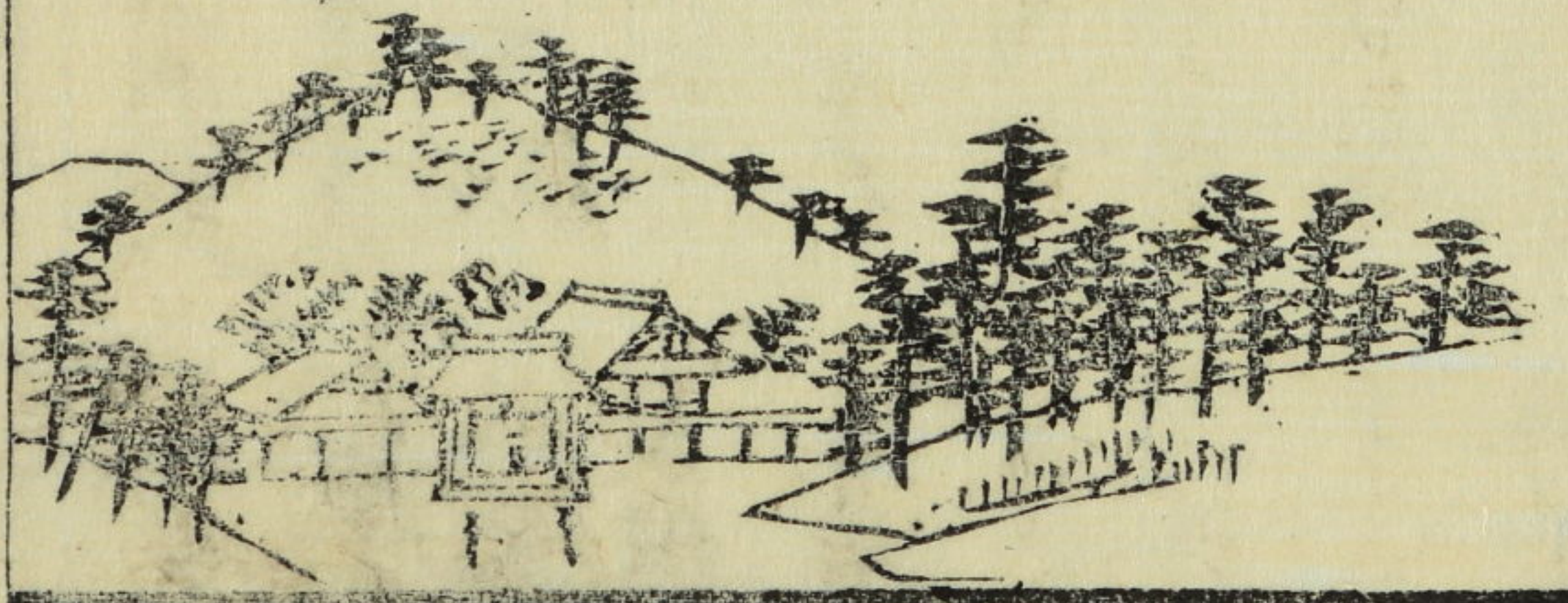


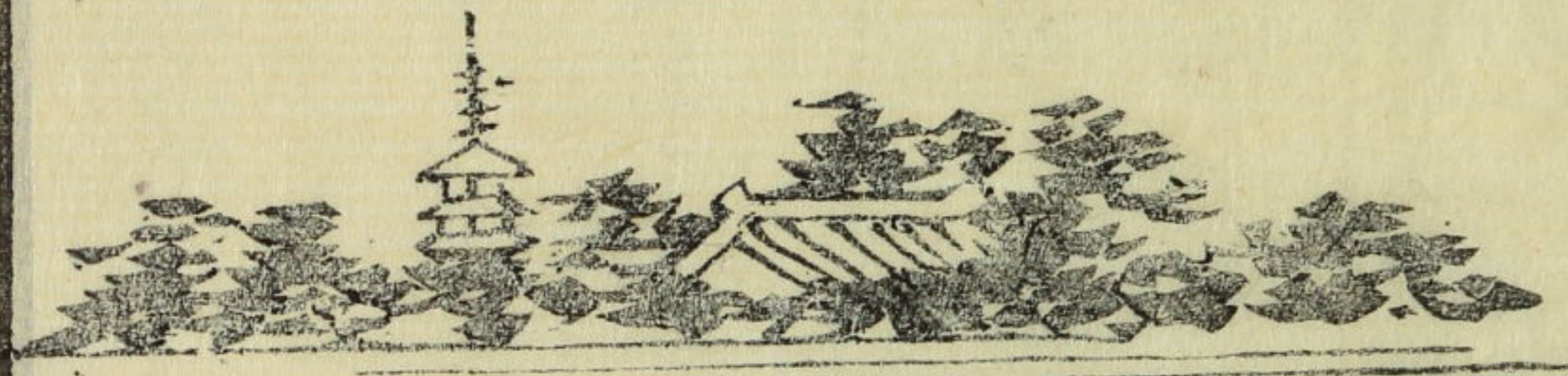




先徳供する常喬も系図形 茂樹  
 鯉魚の坐事なる西鱗と重も悔 今  
 海の深サハ波の皴あそく知れ 松崖  
 新眼内眺む小長五又ヒクリ 茂樹  
 藝草生首以法ふる以僧苦 春樹  
 短意と見られ切と身ノ箇相如 滝之  
 雷電ハ烈し消入る光る 二六  
 つたふりの志も同出に木の枝 五五  
 夜船の思ふ出威光を積伏見 柳系

湯作らざるも徳りととらん死 美早  
 子孫ある宗有洋亦も孝の教 奴  
 位牌への孝病付る出る衣名 正徳  
 抱こふふおんを、実の報恩儀 其中  
 吳坐の廣小南のこハ遠と中らん 西堂  
 其外て書れハ先垂の切る楸 其中  
 又悟の目もふ仮つしとんて隣り 一巻  
 頼実の死後親族も皆財而 八巻成  
 わる目と立く清きてまの地 五五





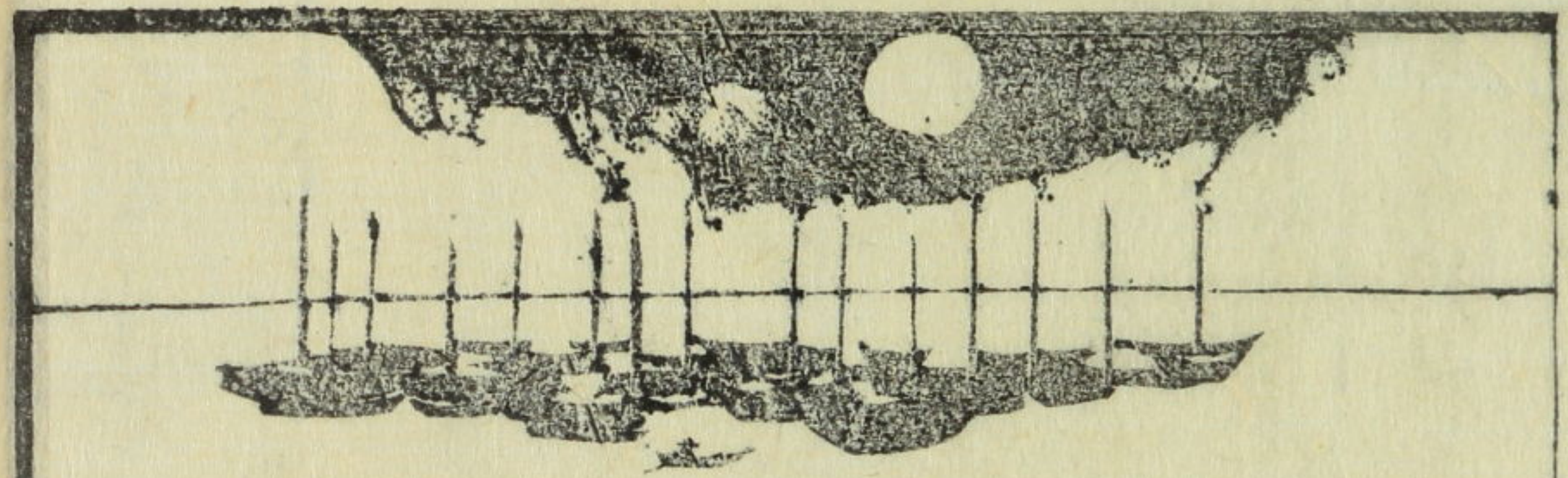
千觀の道徳をも負ひ切らば  
 様の本成居て守る如天正寺  
 此身と形ふるす業業研てお歩  
 只美照と名に不解く二程大所  
 十元君実ハ時より程あられ  
 歩を多小女尊就王以ふ人  
 中必引返一軍も仕立業  
 仔細の之市解更と止ふ辰  
 大粒小名の鱗も初を消人  
 夜更

三十一

欲らるる百万石も食之度  
 経とらふ限のふあらし忠と考  
 高の不二隣り身突も綿慣  
 口籠りたる悪ハ心の筆の雲  
 さらおし居るる清道も教へ是  
 奉るる腹赤を成はけり  
 盗病の茶先ツ二透ら嘆をらふ  
 念録の終堂問ふ著の杖  
 言外のなきは老木の酒り初



三十一



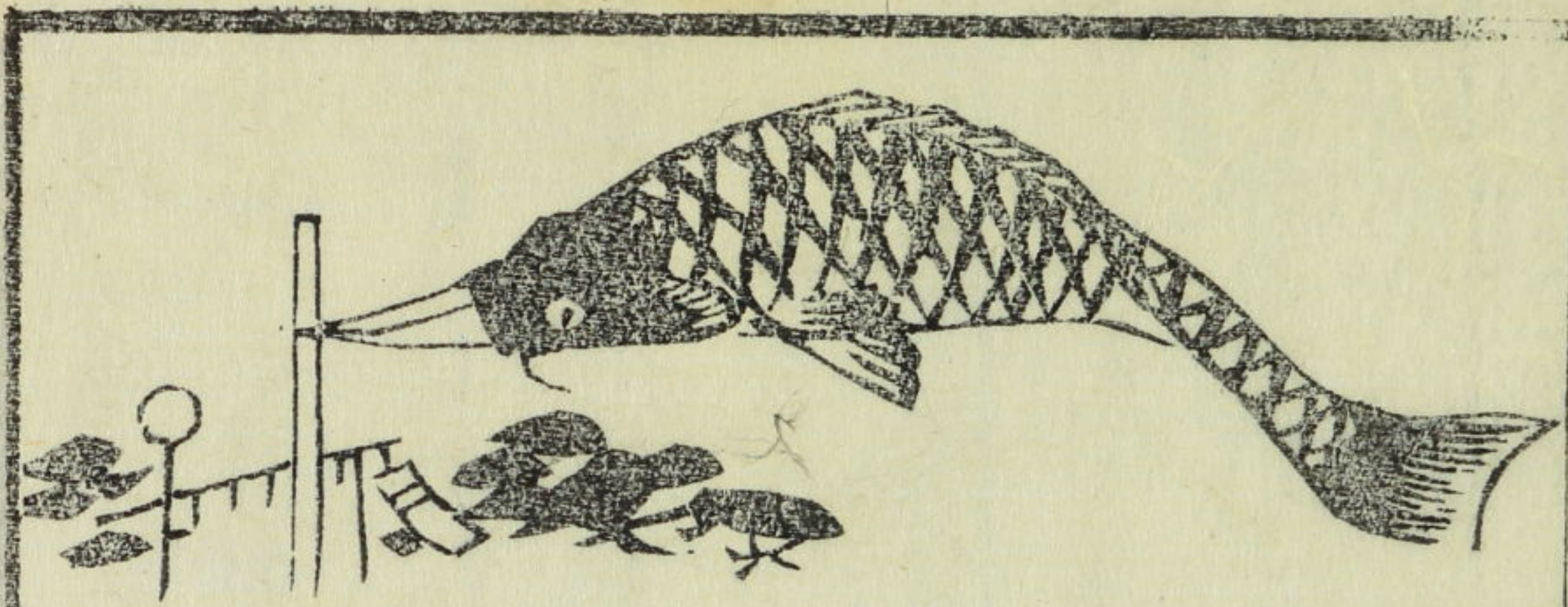
菱云の濃麿の像ハ極り等  
 不二の峯のそとにありハ如きれハ  
 躰尾の蛇渡の堂もハ如き家  
 池と坊も亦不買最ハ如き法  
 花紙捲ケハ如道の真法今將  
 二五の由果合も名護屋ハ如き月  
 輝世も如き酒望月ハ如き夕  
 菱金の秘ハ如き世ハ如き光り  
 朕ハ如き如き如き如き如き如き

寺  
 寺  
 寺  
 寺  
 寺  
 寺  
 寺  
 寺  
 寺  
 寺

西乃う至忠益成出——益  
 風網の格も高ハ如き如き如  
 或も退けハ如き如き如  
 益母の体武官も如き如  
 高徳成雅の友ハ二山ハ如き如  
 高徳ハ如き如き如き如  
 池橋ハ如き如き如き如  
 池加恩ハ如き如き如  
 高ハ如き如き如き如

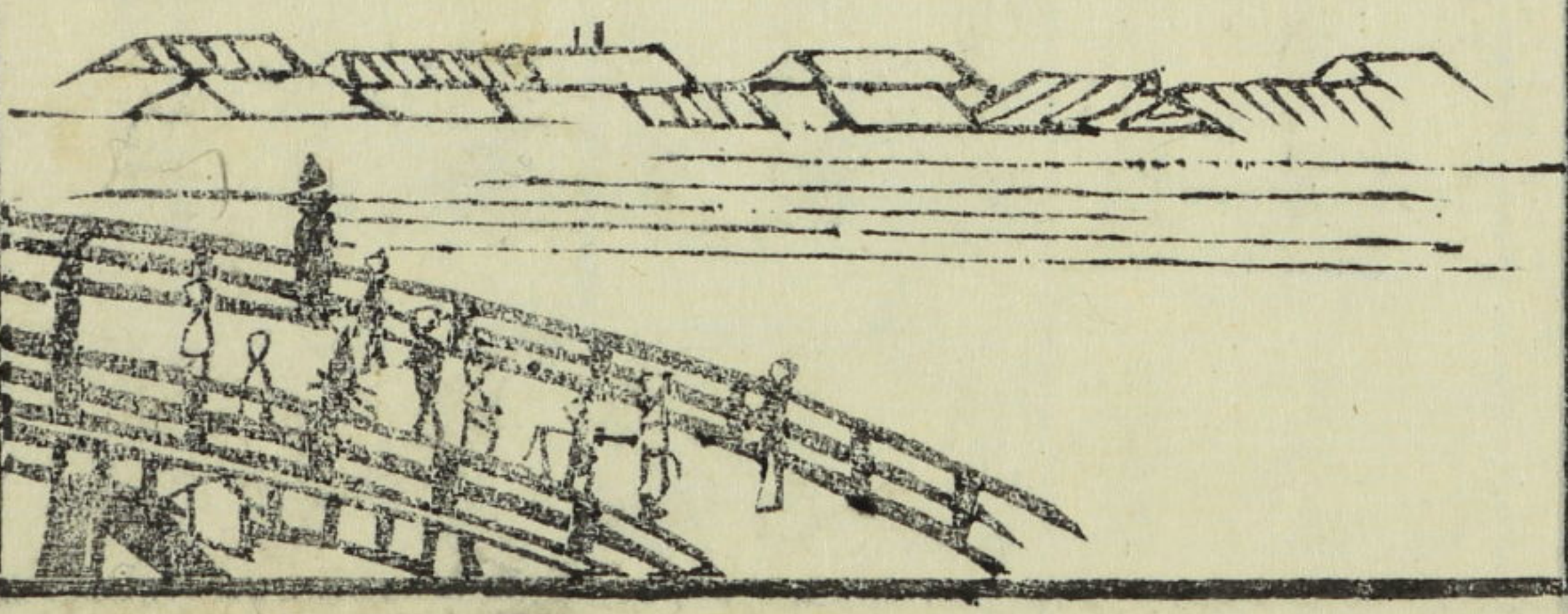
株木  
 友持  
 松雨  
 寺  
 寺  
 寺  
 寺  
 寺  
 寺  
 寺  
 寺





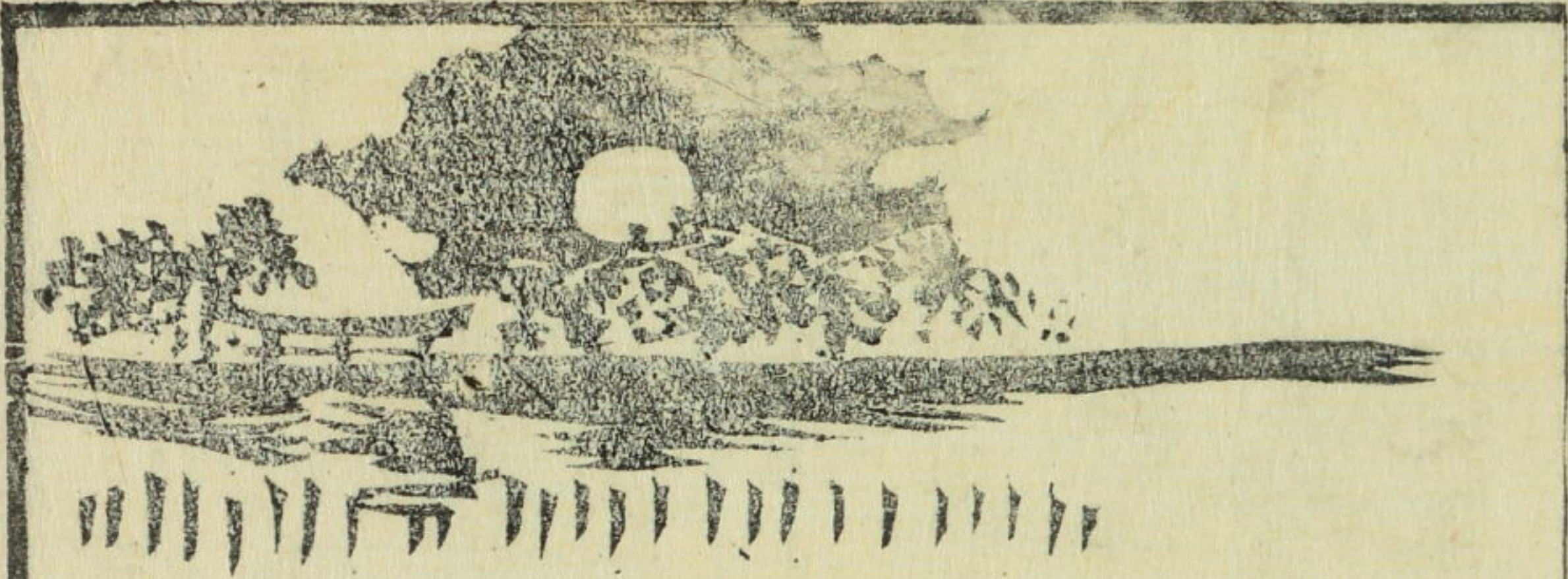
杉山不から色く針小外籠 美里  
 本魂の老士眼鏡て孫のち 西巻  
 鯉紙三尾勢宗門の轄る足 白岩  
 俊守の編者下守の白牡丹 柳如  
 喰とより親の信ぶ紙の鯉 栞在  
 軍利の菊と小西類の腮をぐれ 三サコ  
 標の曲りもつてふと病り松 りう五  
 廊下へ去る地持の太極美  
 流く額を藤成まを移したるに

お撲の時を生るうらみ砂へ埋 りう五  
 新吉へ交をふると待たれし 三サコ  
 終業の切徳を思ふ後世の周 續有  
 法華經不手かり命の答海り 西巻  
 大仏関口位徳元は里四方 栞在  
 かすうふおれと仲たう所目見 茂樹  
 昔と能来もふ汗梅の難を改 三サコ  
 多尔と菊を汁の更法寺毒坊是 栞在  
 産の終る名際徳もすに奉 全









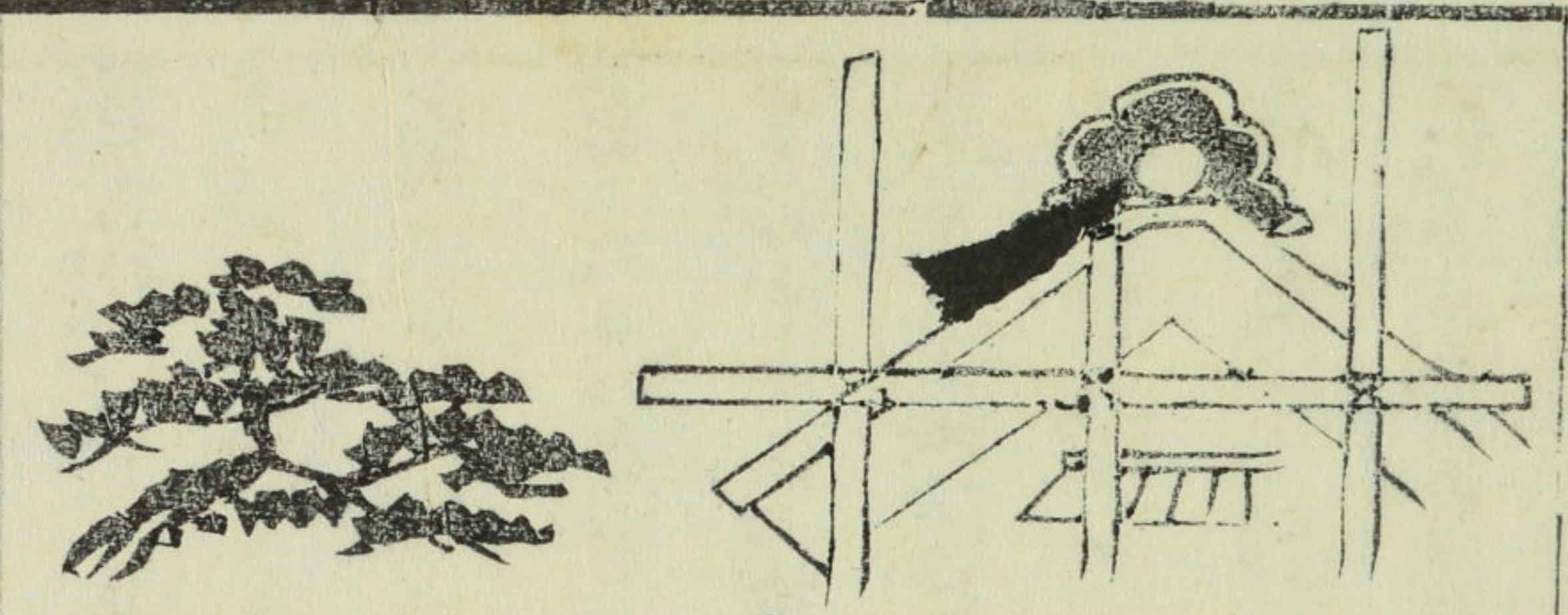
巾着をてらせど馬ハ床もせび  
 志願所と云はれ所て育々令  
 安勇種嬌小賢者不交子忠又  
 于方の血尚紋原何の和國  
 襟元の世々情交の袖成り  
 まじり川も四五日来て橋下船  
 今ハ我等毛と雲の夜ふとの仇  
 九代の意をえ得し、この新丸年  
 二ハ福地様と云はれ御ハ徳実のり

榎本  
 柳本  
 榎樹  
 榎樹  
 一七  
 友治  
 友治  
 友治  
 一七

秋も例水は多そ申れ人の教  
 秋曉者已し不務とく人ふり  
 手紙の肥し書生ふと夏湯  
 御書お返状丁度一七日  
 紀念とて書るにもある熱入齒  
 親喜の培雨とれも能く  
 上戸毒く知り流り又茶と云  
 産も多し以一声不皆也れ  
 安んく心配年寄成陣々旅

榎樹  
 榎柳  
 友治  
 友治  
 友治  
 友治  
 友治  
 友治



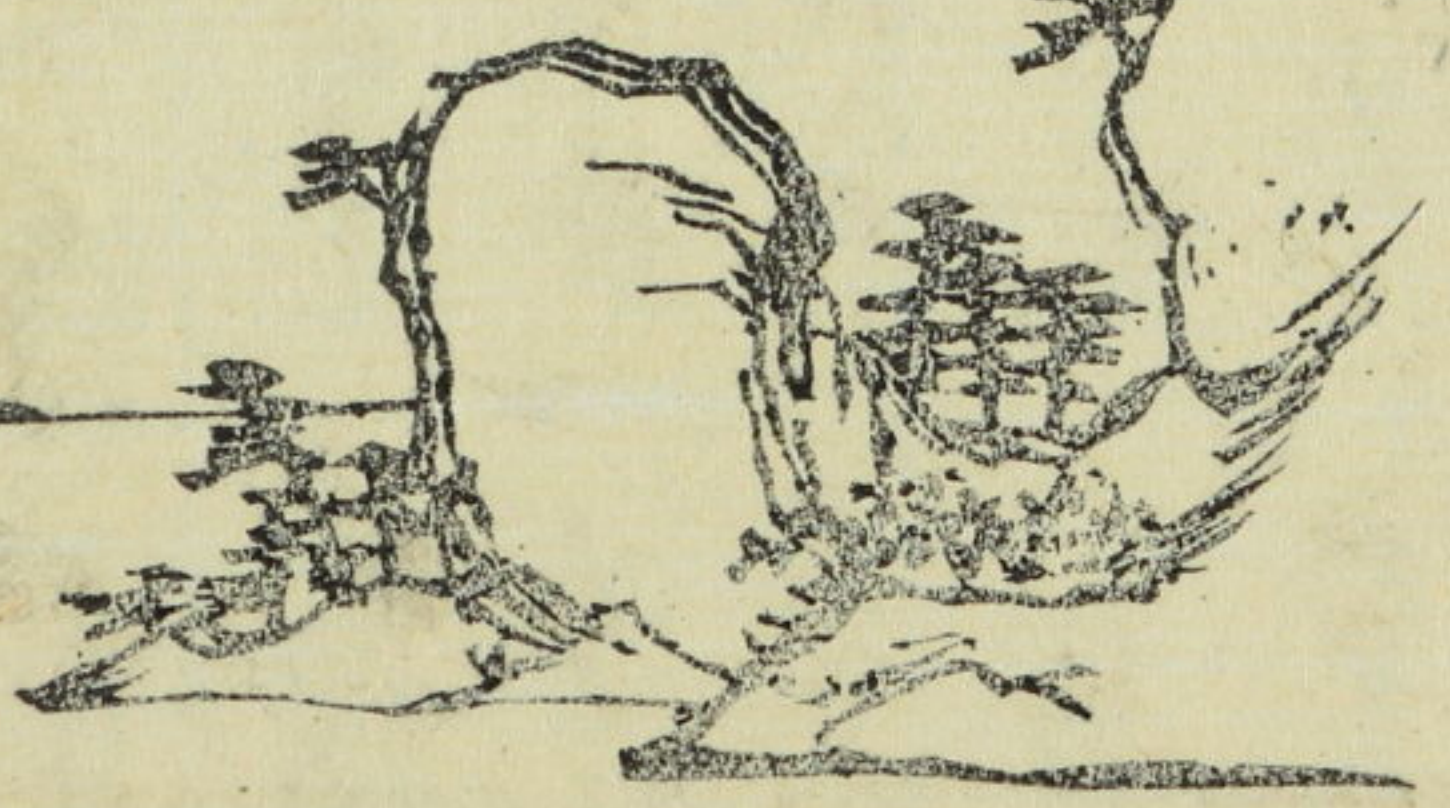


是し物も人の情まぬ若事云  
 雲運ふ牛を撫むる若事若情  
 家法の家を若事若事の家  
 陰中の陽を撫む若事若事  
 或ふ枝月若事と物のは揚ふ貴  
 子の文を若事と撫むの年歳若  
 等者とも若事若事若事若事  
 途かあるもの若事とも若事若事  
 清りの燈火先若事若事若事若事

若事 若事 若事 若事 若事 若事 若事 若事  
 若事 若事 若事 若事 若事 若事 若事 若事

崇極の天を若事の内と外  
 光明の清く若事若事若事若事  
 扇之若の式同と若事若事  
 西征と若事若事若事若事若事  
 貴ひふふ若事若事若事若事  
 又若の所代財ふ合若子の若  
 款の月若事若事若事若事若事  
 石が若事若事若事若事若事  
 若事若事若事若事若事若事

若事 若事 若事 若事 若事 若事 若事 若事  
 若事 若事 若事 若事 若事 若事 若事 若事







瓦屋ハ山經々紀笈 本 瓦 真中  
 榎ノ後ノ寺の急も落し下り 急金  
 道成初ノ縁ノ道知子ノ末嗣 友治  
 西の橋龜田成階む者 人 傳 三子コ  
 幸も一對川紙ノと波の上 經ノ  
 後幸ハ下ヤ在て美田ふん限る色 幸 三子コ  
 寸ノの女入るきかノ袖の下 賢テ  
 奥剛不海ととりりしハの能 口 茶飯  
 毒れとつハ人ノ命より能イ業り 口 阿是テ

後病ハ若子小迫き 急ハ持 柳傳  
 卒念考の是ツキて天急刺馬業 里五  
 和奇小遍 正令劉の力も凡ノ 正登  
 巻ノれんより積るれぬ身用ハ 書金  
 春や海生キても龜の百分一 友治  
 病ノ痛小かこすハて松長書 書金  
 梅の故事ノ鼻小かけける奥書れ 子子  
 込ハ帝ハ力足端 仁五門 梅はし  
 陸ぬ物多ノ急燃て書ハ成威 和急海



五七



親の恙也子成女はて地成結  
 獲せしうこれさ堪思標桐糸  
 けくあふ六水能ひ日小降り桶  
 仁高の物候戸扉連アウレ  
 福葉書くしゆり物する于紫糸  
 伝岩ふあ一嘘の予物持人  
 母ハ昔今ハあとの身ましく豊  
 中さくはひらかたる遠く航と航  
 中を言ふひ筆の奇書りか玉

媛有  
 折糸  
 研友  
 長中  
 縁有  
 茂樹  
 長中  
 丸和  
 和藏

餅網も周く敷中を止メ藤髪  
 糸のあふ花の都の山忌少神  
 戒たりの傍ハ漸く死に寄り  
 去程去日しく徳一財の夢  
 目小解る求程よこれの鬼の腮  
 橋高々と岩の相織く巻く心  
 袖坂のつらねとからを綿草  
 窓のそりしれ降服あられ舞  
 百合あふまはらぬ秋の露の墓

二サユ  
 松両  
 白若  
 義可  
 心在  
 芳丸  
 若舎  
 子五  
 二サユ



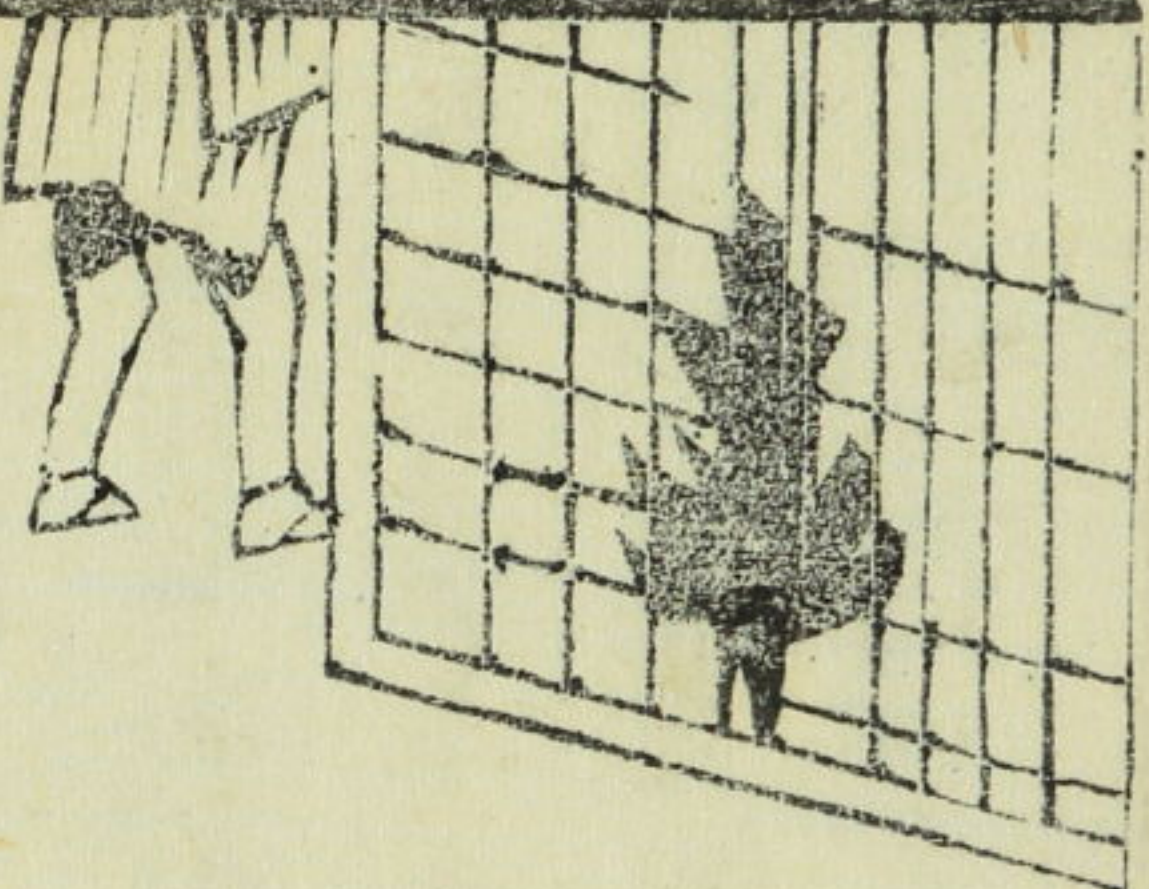
五七



名義之人の上段小清所丸 芳丸  
 葉花をわらへ八丈の冠り 金 春樹  
 宵かきむあくくわく時多 柳  
 蝶をく小度ひりり知り多智不 甲 乙  
 孝女の質多親く多波先小庭 縁り  
 本戸明子門番おぬ身と女一 高申  
 陽も月をとりし法府小帽多打 柳女  
 魁と化しき終る尻で羊れ 一友  
 襟足小多那の物く黒木賣 寺 成之

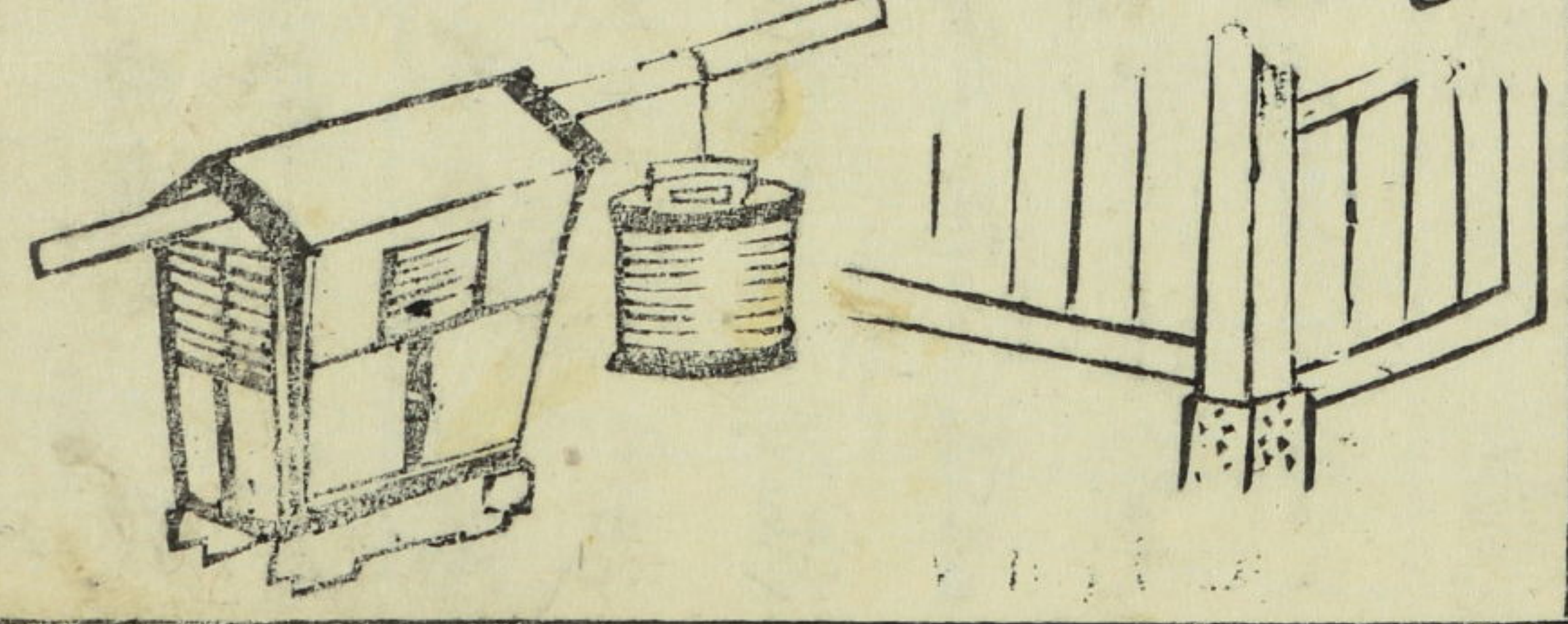
飛んて来ると雲をハきくもり 白布  
 幾つても花おろくぬ早摘屋 松雀  
 お百崎の植木念教の存澄 桂 三子  
 孔子と陽虎地と地備秘事遠 後樹  
 せんや摘りもわふける妙の整 一吉  
 御章の育封く同阿古屋 柳正  
 愛初小虎のさくろ根の下 おふ  
 花魁の水と影行車 風 本井  
 是く聖地と池小燈塗く 徳 楽服





冥之引歌の子吉良家の茶振舞  
 青柳の髪(玉)雨の水 油 小娘  
 定夜賣りうけく厚の利根叶 全 慶喜  
 少の込娘門不嬢アの黒園 女 春樹  
 初のかげ重あ白ひ強持せこー 柳は  
 酒もあ平きりの猫う虎と化ー サクラ  
 地紙四茶味山蔘も布目歩 将蓮  
 隅田の庵控く陰世中行ッつろ サクラ  
 大晦日富家の月うろく鬼ゴツコ 吉中

花傍の氷も雪も舌々とき 麻は  
 之位の浮沈あの本と木中産 楮木  
 花嫁成仏千柿の扱と次 今成  
 菊の羨の香り枕の上をとおー 法王  
 花の廊入るるのせの極木室 尊丸  
 おろの関白教生う身不意ー 喜舎  
 曼陀羅花もて手不たんと教めこー 全  
 名代の丁当風小苑さうれろ 椿堂  
 けし系平足射ー客うめく子 山左





高の後品務て愛人猶 既中 八五子 一樹  
 おめうらとて笑て門院の身を忘れ 松山  
 妻宅の花火母の人の知ひ 白菊  
 松山お此中めうら若妻志はし 一花  
 我のあをたててさう白菊改心し 青樹  
 腹の重り着ぬ時中休て居 瑞雲  
 危拂ひ花御玉足しとく彩も 雲令  
 茶礼のあまふ八周り古敷園者 序采  
 おろく出入墨村のりく酒屋 折糸

或者忘て南云湯拍く版田町 田舎  
 高古屋あつたり鳴すりも来りあつ 友松  
 イヤチて引少は枕用張の時之邊り 田舎  
 産へ来る菫ハ近以贈き一町 瑞雲  
 以ん傳んハ助へあうふ自 画 和齋  
 おろく山おあふ其の集メ離一 瑞雲  
 あふ不深考の深あましとナア 友松  
 飯着の面不切し女の隣邊り 松雨  
 コリ中篇さうくと子子の文章種氏 友松







鶏て煮ふ蛤とむる為 あり  
 手杓の法作事と足ふせは 友治  
 川歌うまを具はしむる率 全  
 免治法を盛る八文字 五  
 嫁(出附)の脚痛ふ路の表 全  
 一医者も手紙に手後推の田ま(有) 全  
 裏別保(有)とゆふ之途を 白若  
 恩成知る大根中何れも株かきり 友治  
 中(有)の歌智去り物(有)と梳 友治

麦儘(柄)をもち村以痛 押袋  
 中結細工あふらふ妙舎元を何付 二六

唇のあつら(筆)着てガダツヒー 大人 柵赤

赤岐の書(中)女戒名と名(有) 二六

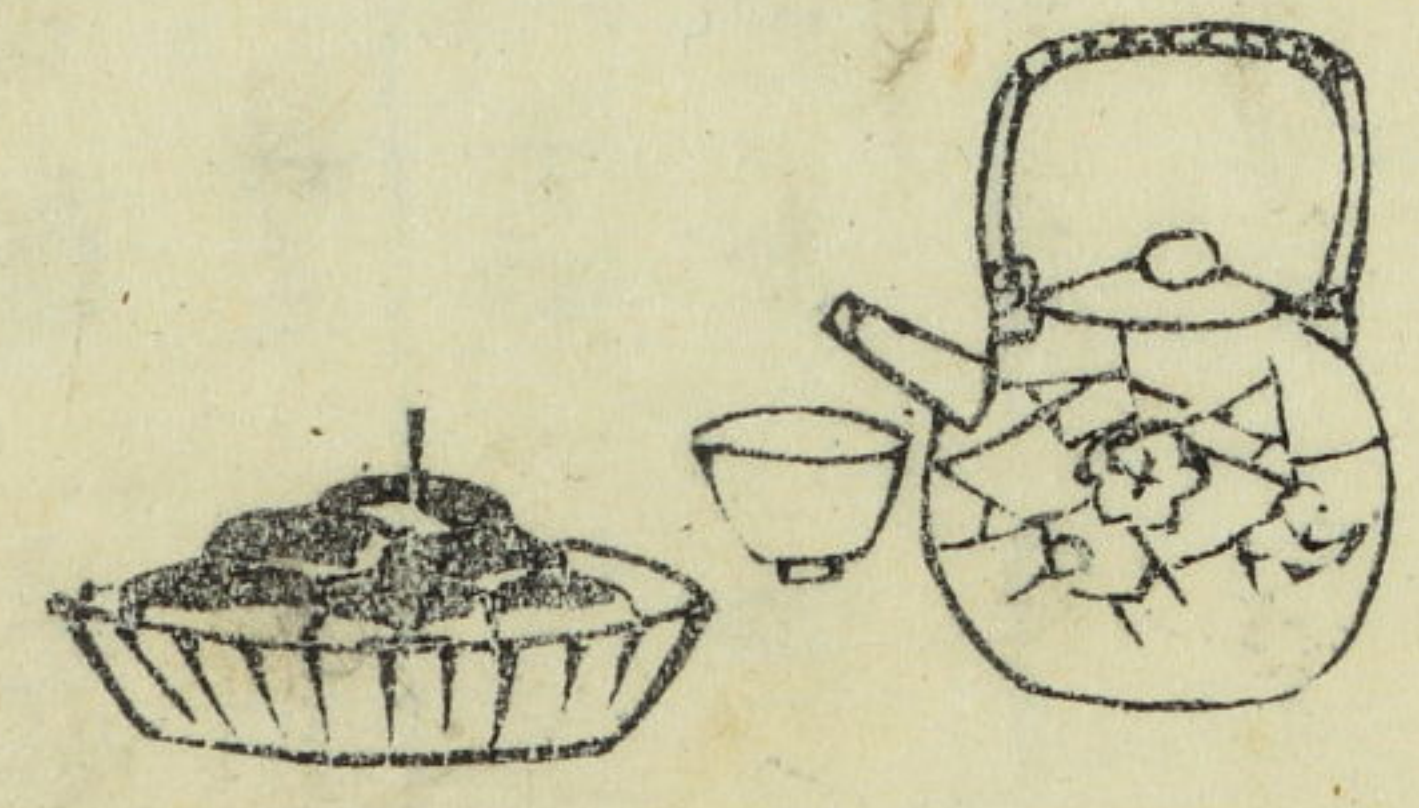
元政の祥世(足)書(有) 二六

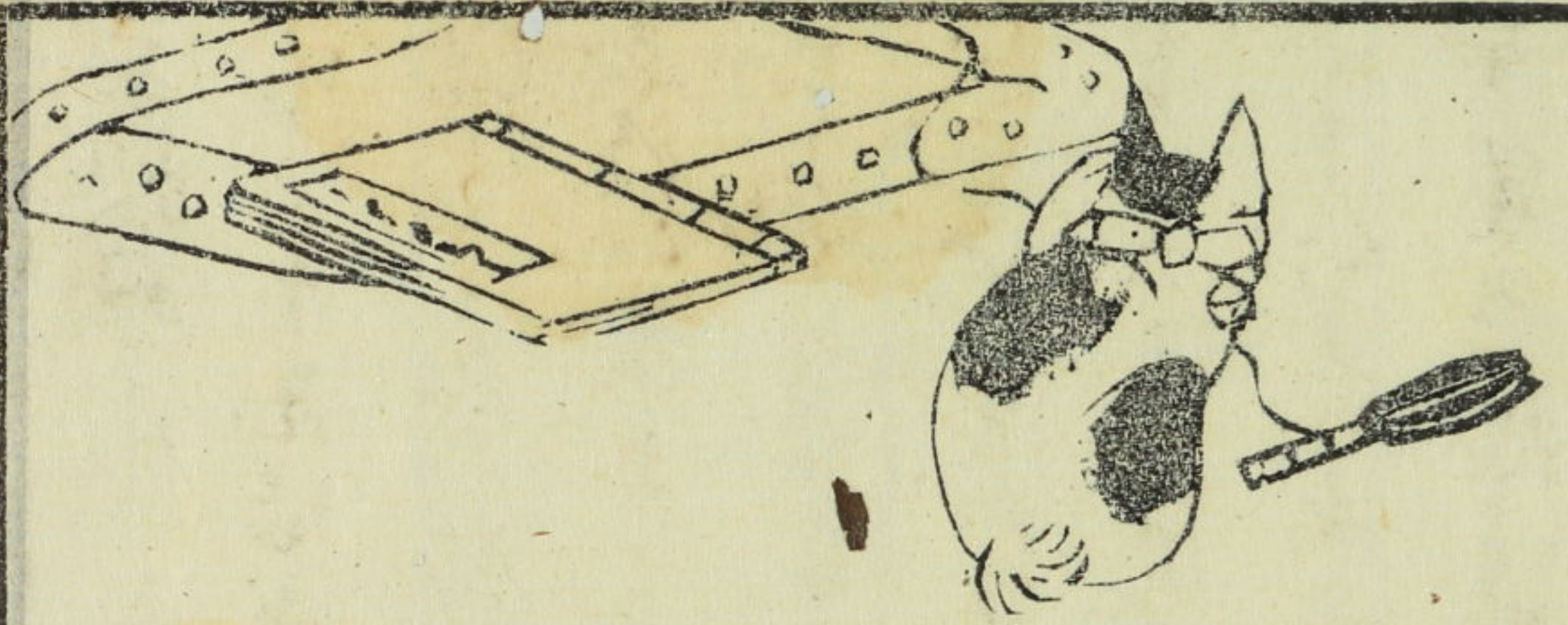
梅(有)も足(有)後(有) 田舎

少(有)も(有)た(有)法(有)用(有) 全

中(有)方(有)多(有)く(有)中(有)斗(有)り(有)る(有) 阿豆麻

牡丹(有)の(有)信(有)令(有)運(有)ふ(有)ら(有)る(有) 中丸





お寺の押石つけりけり多のを 紫廿 一太  
 多の各名可成さるり奥の壺 美穿  
 紫の上は見え深くと 色 好も 柳原  
 芦原へはやく後妻の船も波 渡基  
 阿呼とら給金芝山の葉屋 女 酒山  
 浪下葉て見合臺なる初突り 若丸  
 丈下へのさゆけし遠きをさ 出り 梅山  
 給の何の物も初るはる麻糸ひ 一古  
 仁田の目猪りあるさ 洞 鳥舎

紫標屋中へさるる教子 毒を止 飾り  
 天人常元梅津寺のあり先 久奥  
 高きとんちれ女房はかひあり 義可  
 立役ハ梅舟て幕のゆき地 行 成之  
 恙も大なりな乳母の居る 船 水山  
 浪方成替はあましましぬ家 二サ  
 雪と天の志似平りしとて 舟 成之  
 下よふとお七の扇成志し 女坊  
 女等の尾も散れぬ風名より 柳原







巨燈ノ丹用ニ小熱ノ足 柳葉  
 舞の大物姫家ノモノ ありふ 床前  
 大蓮ノ和尙ノ存モ常 夜燈 一樹  
 陰ノゆれ陽ハ鼻鼻雷ノ中ノ 友江  
 弓削入内益ノ結平モ大慶弓 田舎  
 抄系全舞モ折ノ吐 膳立 去中  
 吾ノ胆忘紙あり乞 夢覺トモ 全  
 多知トありきハ爲ノ藤ノ巻ハ似 六古  
 母安堵燈物モ中來ノきハ成リ 二廿二

徳士ハ身ノあつてぬれて居る道ノ大 夜裏  
 比丘尼トモ古巻ヲ紙目ノ立尺 香山  
 川の字ハ藤ノてぬれやとよ月 招九  
 押傍ノ早波<sup>ヒツハラ</sup>舟ヲを喰せし 二六  
 嚙もつ子ノれハ紙布ハ西足中 上七  
 母もかろろリ新枕<sup>た人</sup>ませし 柳葉  
 系合も曲舞ぬハそと<sup>甲</sup>きく 二七  
 抜身トあむそくハ世<sup>乙</sup>世<sup>丙</sup> 二八  
 藤隠シノ金魚<sup>サクラ</sup>お子のああり 廿九





釋世

願之月年 執着をばし 吾月也

柳赤

釋世

今よりなりて 何と書きまらる

丸形

追悼

云々 業とくとりおとす 物ら 世も

友切

元治死元甲子年十二月十四日

於善町 柏木樓上 閉卷



